

Title	西ドイツ刑法学の現状 (追録IV)
Sub Title	Der gegenwärtige Stand der deutschen Strafrechtswissenschaft (Vierte Ergänzung)
Author	宮澤, 浩一 (Miyazawa, Koichi)
Publisher	慶應義塾大学法学研究会
Publication year	1977
Jtitle	法學研究 : 法律・政治・社会 (Journal of law, politics, and sociology). Vol.50, No.4 (1977. 4) ,p.74- 137
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	資料
Genre	Journal Article
URL	<a href="https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00224504-19770415-0074">https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00224504-19770415-0074</a>

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the Keio Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

## 資料

## 西ドイツ刑法学の現状(追録Ⅳ)

宮澤浩一

## 解説

一 西ドイツ刑法学の現状を正確に把握するという此の仕事を続けて、今年で一二年目に入る。もつとも、これは、一九五八年に、予備的な調査を公刊したことがあるので(法学研究三二巻八号、昭和三年)、その時期から計算すると、一九九年目に入る。最初は、何となく、おぼつかない仕事ではあったが、今日では、日本の心ある研究者にとつては勿論のこと、西ドイツの研究者仲間にとつて、彼らの同僚の業績を知る上で、かなり頼りにされている基礎資料となつた。西ドイツの友人達と話をすると、必ずこの資料が話題となり、新しい情報を教えてくれるし、中には、「西ドイツの刑法学者の間で、論文を書くときに一番ひんばんに参考にされる文献の一つではないかと思う」とさえ、言ってくれる人もある。これらの人々の声

援と協力を得て、次第に成長してゆくこの仕事を、ますます、充実させ、一層正確なものにしてゆかねばならないという責任を感じている。

二 他の研究者に、正確な情報を伝えるという仕事には、極めて重い責任が伴う。若し、不正確な記事があれば、それは直ちに判明してしまふし、間違つた情報で他の人々の仕事を阻害する危険が内在している。そこで、数年前から、ここに収録した文献のすべてを自分の手元を集めることにした。勿論、集めるということは、目を通すことを意味する。大へん勉強になるが、結果的には、本とファイルの山にかこまれることになつた。殊に、雑誌論文は、コピーにとつて、事項ごとにファイルして整理することにしたので、私の勉強部屋はまるで工場のような観を呈することになる。しかし、これほど楽しい仕事はない。学問の動向が、手にとるように分るのであ

る。そして、此のやり方が、西ドイツの仲間に伝わっているので、彼等の協力には、以前と比べて、格段の相違がある。中でも、教授資格をとつて、学者の世界に入つたばかりの若手の人々は、特に積極的に協力し、情報を提供してくれる。この実績をふまえて現在、さし当り、第二次大戦後の文献に限つて、西ドイツ刑法学の集大成をしようという気持になつた。恐らく、ここ数年の間に、三冊から成る「西ドイツ刑法学研究の手引き」を公刊することにならう。しかし、この仕事は、事柄の性質上或る時点で区切りをつけて文献の整理をするので、その後に見られたものを逐次フォローする必要に迫られる。そこで、此の「追録シリーズ」は、少くとも二年に一回は、今後も発表しつづけねばならないと思われる。

三 「追録Ⅳ」には、前稿「追録Ⅲ」（法学研究四八巻六号）を公刊して後の二年間に公刊された文献、これまでの分に登載洩れであつた文献を収録した。なお、この二年間に、私どもになじみの深かつた学者、ラング・ヒンリクセン（一九七五年三月二日歿）、マウラッハ（一九七六年六月一日歿）が此の世を去つた。それと同時に、新しく、若い世代の学者が多数登場した。アルファベット順であげると、次の通りである。アッヘンバハ（ミュンヘン）、アメレント（ポッフム）、バックケス（ブレーメン）、ベーム（マインツ）、デンカー（ボン）、エーベルト（ビールフェルト）、フェーツァー（ミュンスター）、フィードラー（ボン）、フィンケ（ビールフェルト）、フリッシュ（マンハイム）、ゲッペルト（ベルリン自由大学）、グレピンク（フライブルク）、ハフケ（ハノーバー）、ハインツ（コンスタント）、ヒューナーフェルト（フラ

イブルク）フーペ（マールブルク）、クロイツァー（ギーゼン）、クライ（トリエー）、ライビンガー（コンスタント）、ユルゲン・マイヤー（フライブルク）、ロリンスキー（レーゲンスブルク）、リュューピング（ボン）、シリング（ハンブルク）、シェーネボルン（フランクフルト）、シュウィンント（ビールフェルト）、トス（ブレーメン）、トゥリフテラー（ギーゼン）、ウルゼンハイマー（ポッフム）、ヨアヒム・ワグナー（ベルリン自由大学）、ウルリッヒ・ウェーバー（ベルリン自由大学）らがこれである。この中には、すでに、「追録Ⅲ」に入れるべきであつた者もいるが、著作が少なく、その当時には、気づかなかつた人達である。あまり、最近、物を書かなくなつた人をも加えて、西ドイツの大学関係の研究者は、一五〇人ほど居るが、現在までその殆どどの調査を終えた。若い学者達に、当方で記録した著作の一覧表をつけて、照会の手紙を出すと、殆どの人々から、すぐに返事がくるので、資料としては、極めて精度が高いと思う。

この「追録Ⅳ」から、新たに登場した学者には、※印をつけて、これを明示することとした。又、今回の資料と過去のそれとをインテグレートするのに便利なように、各学者の記事の冒頭に、追録Ⅲと同様、既発表の資料の所在頁を掲げた。ちなみに、刑一七・一・二と三・四とは、刑法雑誌一七巻一・二号、三・四号、昭和四五、四六年であり、追Ⅱ 1・2は、法学研究四五巻九、一〇号、昭和四七年、追Ⅲは、法学研究四八巻六号、昭和五〇年である。

四 この資料は、依然として、わが国の刑法学研究者の中で根強い西ドイツ刑法学への関心に応えるべく、その現状を正確に伝える

という編者の意志の現われである。それは同時に、明治二〇年代以後、幾多の日本の学者や実務家が、ドイツ刑法学から多くのものを学び、今日の日本の刑法学の血となり、肉となり、骨としたけれども、これまで日本から、その研究成果をドイツにかえし、何らかの斯学の発展に寄与したことがあるかを深く反省し、そのあまりにも一方的な輸入超過に慄然とし、恥かしい思いをした筆者が、何とか「知識の逆輸出」をしたものだと考え、それを徐々にはたしてきただけである。この仕事は、決して、一部の人々が評するように、「対独従属的」なものではない。何故なら、従属すべき類似の仕事がほかにはないからである。むしろ、西ドイツの刑法学をここまで追いつめることが、外国人の手でできるのだということを事実をもって示そうという筆者の心意気の現われと理解して欲しい。そして、今後、日ならずして、一八世紀末から今日までのドイツ刑法学、さらに、スイス、ベルギー、オーストリア、フランス、イタリー、そして出来れば、オランダと北欧について、同じように、その過去と現在を徹底的に究明してゆきたいと考えている。

五 日本の学者、実務家は、大へん勤勉に、西欧、殊に、西独の刑事法学を研究してきたし、現在も、研究し続けている。しかし、広くかつ深い比較研究を行なうに当つて、従来、いわば、海図も羅針盤もない航海をしているような状況にあつた。今も、似たようなものである。私のこの「基礎的研究」は、まさに、すぐれた同学士のために、航海の必携品を提供することにある。

ところで、この種の資料を造ることを心がけ始めたとき、私の考

えの中にあつたのは、「武器の平等」という理想である。言うまでもなく、研究を行なう者が、利用する研究資料を平等に持ち合い、学問の場で対等にわたり合うという理想的な姿をいう。わが国の学界ではともすれば、明治、大正、昭和、そして今日まで、学問の情報に偏つて存在していたきらいがある。何故、最近まで、特定の少数の大学の研究者が、——大したこともないのに——学界において覇をとなえることができたのか。それは、一にかかつて情報を早く、排他的に握ることができたからにはかならない。時代が変り、情報蒐集において、「開かれた社会」になつたにもかかわらず、一度ついたくせは、容易に直らない。私も、はじめは、自分のところに、情報を集め、次第にそれを効率的に駆使しうるまでのシステムに造りあげた。そして、次第に、これを皆の共有財産にしようという考えを持つに至つた。正攻法をとるのが、私の性に合つている。こそこそした態度ではなく、学問全体を多くの同愛の人々とともに向上させることこそ、望むところであるし、日本の学問をして国際的なコンクールに出してひけをとらないだけの力をつけるのは、一人の力では不可能であることを身にしみて知つたからに他ならない。

かつての私もそうであつたが、わが国では、モノグラフを書く場合に、外国、殊に、ドイツの論文や単行本をたんねんに読んで、そこに引用されている雑誌論文などにも目を通し、若干の観点を付け加えて、論文に仕上げるのが常である。その場合、ペンネツケらによつて創刊された *Stratfrechtliche Abhandlungen* が、長い間、愛用された。だが、どうもこのやり方は、安易であり、かつ危

険ではないかと思うのである。何故なら、ドイツのオリジナルの論著の筆者達自身、必ずしも、過去の業績について、正確な見直しを持たず、あまり組織的ではなく、かなりアトランダムに材料を集めているからである。一九世紀、或いはそれ以前の論文や著書全体として見直し、必要なメモを集大成した上でモノグラフを作成した人が、はたしてどのくらいいたのだろうか。つまり、われわれが下敷にしている著作の、殊に、学説史の部分は、その当該著者の主観と才能というプリズムを通して選択されたものであるにすぎない。そうではなくて、日本人の目で、それらの原材料をつぶさに検討し、テーマごとに過去の遺産を洗い直して、われわれ自身の選択眼と判断力を通して、学説の発展過程を分析し、その成果をふまえて、個別問題の核心に迫るといふ、本格的な研究をすべきではないかと思う。

そのために必要なことは、まさに、過去の業績の所在を正確に知ることである。私のこの考えは、ここ五、六年、閑をみては書きためている一七九七年以後のドイツの刑法関係の雑誌論文のメモ、論文コピーの蓄積を通して、次第に確固たる信念になりつつある。

私の仕事は、誰のものか。私の気持を率直に述べれば、殊に、私のあとからつき進んでくる多くの若い世代の研究者に、迂遠で、手間と閑と、そして大へんの財力のかかるこの仕事の所産をさしあげたいと思つている。この仕事は、本来（日本のこれまでの先学のやり方に従えば）、こつそりとやつておいて、彼の地の所説を換奪胎し、いかにもオリジナルな考えであるかのように装つて、原典を引用もせ

ず、頬かぶりをして、「新学説のごとくに駆使した方が、私自身のためにはなるものである。しかし、私には、そういう育ちの悪いことは出来ないものである。何故なら、私は、福沢諭吉の縁に連なる者の一人だからである。

六 最後に、此の資料を造つているとき、私の心を支えている言葉を伝えたい。「理論の世界には疑ふことの許されない権威はない。私は特に若い学徒の……思惟における徹底的な態度を希望する」（佐伯千仞・原因において自由なる行為 刑事法講座第二巻、昭和二十年、三〇九頁）。

浅薄なキャッチフレーズをふり廻し、オリジナルな思考であるかのごとく装う「理論」なるものは、日本語だから救われ、日本だから通用するという面のあることを忘れてはならない。えてして、その類の著書の「目新らしさ」の七〇%以上が、すでに既発表の外国文献にあることを知つて欲しいものだ。この種の例は、偶然の一致にしては、多すぎる。引用がないのは、整理能力の不足か、その所在を知らないのか、或いは剽窃であろう。そのいずれか一つでも、学者としてのエートスに欠ける欠陥人間と思うが、しかし、しばらくはこのままにしておこうと思う。何故なら、その「オリジナルティー」なるものに目がくらんで、ひつぱり廻される者は誰か、要するに、真の学者であるかどうかを判定するのに、大へん良い方法の一つであると思うからである。つきはなしたい方かも知れないが、私自身、日本の刑法学が国際的に通用するようになるためには、非情な態度も必要であると思ひ始めている。

## 凡 例

本資料に用いた文献の略号は、従来のそれとほぼ、今回、新たに用いたものは、左の通りである。

IJCP → International Journal of Criminology and Penology

IJOTCC → International Journal of Offender Therapy and Comparative Criminology

JA → Juristische Arbeitsblätter

Koll Str Vgl. → Kolloquium Strafrecht Strafrechtsvergleichung, 1975.

ÖRZ → Österreichische Richterzeitung

ZRP → Zeitschrift für Rechtspolitik

## ※ マックンハハ (Hans Achenbach)

一九四一年一月三日に、メンロンに生まれた。クラウス・ロツキンに提出した論文 Historische und dogmatische Grundlagen der strafrechtssystematischen Schuldlehre, 1974 で学位を取得し、現在、同大学の犯罪科学研究所の助手である。

## 論文

Zweiteilung des Strafverfahrens—Plädoyer für eine “kleine Lösung”, JR 1974, S. 401 ff.

Widerbelegung der allgemeinen Nichtzumutbarkeitsklausel im Strafrecht? JR 1975, S. 492 ff.

“Tat”, “Straftat”, “Handlung” und die Strafrechtsreform. MDR 1975, S. 19 ff.

Strafprozessuale Ergänzungsklage und materielle Rechtskraft. ZStrW Bd. 87, 1975, S. 74 ff.

Der praktische Fall. Strafrecht: Die folgenschwere Geburtstagsfeier. Jus 1976, S. 592 ff.

Verfahrenssichernde und vollstreckungssichernde Beschlagnahme im Strafprozeß. NJW 1976, S. 1068 ff.

Neue Impulse bei der Rechtskraft des Straffehls. ZRP 1977.

## ※ アメルンク (Knut Amelung)

一九三九年二月三日に、メンテンに生まれた。一九六〇年から、法学と社会学をフライブルク(西独)ローザンヌ、ゲッティンゲンの諸大学に学び、一九六五年にレフェレンダールとなった。その後、同時に、ゲッティンゲン大学のミュラ教授の助手として活躍し、一九七一年に、ロツキンに提出した論文 Rechtsgüter-schutz und Schutz der Gesellschaft. Untersuchungen zum Inhalt und zum Anwendungsbereich eines Strafrechtsprinzips auf dogmengeschichtlicher Grundlage. Zugleich ein Beitrag zur Lehre von der “Sozialschädlichkeit” des Verbrechen, 1972 で、その学位を取得した。

一九七四年以後、シヤライバーの助手を勤め、一九七五年四月十五日に、ボンム大学研究参与兼教授として赴任し、今日に至るまで。

著書

Rechtsschutz gegen strafprozessuale Grundrechtseingriffe, 1976.

論文

Internationale Gerichtsbarkeit. Fischerlexikon. Recht, 2. Aufl., 1971, S. 69 f.

Amelung—Schall, Zum Einsatz von Polizeispitzein: Hausfriedensbruch und Notstandsrechtferigung, Wohnungsgrundrecht und Durchsuchungsbefugnis. OLG München NJW 1972, S. 2275, JuS 1975, S. 565 ff.

Unternehmerpfandrecht und Schadensberechnung beim Beitrag. NJW 1975, S. 675 ff.

Zur Frage der Vereinbarkeit vollstreckungsrechtlicher Durchsuchungen mit dem Richtervorbehalt in Art. 13 Abs. 2 GG. ZRP 1975, S. 74 ff.

Irrtum und Zweifel des Geschädigten beim Betrug. GA 1976, S. 1 ff.

ゴント (Gunter Arzi)

〔刑一・一・一三' 二一五' 三・四' 一三三三' 追一・九七' 追二五七〕

著書

Der Ruf nach Recht und Ordnung. Ursachen und Folgen der

西ヘーゲン刑法学の現在

Kriminalitätsfurcht in Deutschland und in den USA, 1976.

Baumann — Arzt — Weber, Strafrechtsfälle und Lösungen, 4. Aufl., 1976.

論文

Notwehr, Selbsthilfe, Bürgerwehr. Zum Vorrang der Verteidigung der Rechtsordnung durch den Staat. Festschr. f. Fr. Schaffstein, 1975, S. 77 ff.

Offener oder versteckter Rückzug des Strafrechts vom Kampf gegen Ladendiebstahl? JZ 1976, S. 54 ff.  
Kriminalitätsbekämpfung durch vorbeugende Sicherung. Ausweg oder Sackgasse? Krim. 1976, S. 433 ff.

※ バッケス (Otto Backes)

一九三六年一〇月四日、ザール州のテライに生まれた。当時、ザール大学教授であったマイホフナーに提出した論文「Rechtsstaatsgefährdungsdelikte und Grundgesetz, 1970」により、学位を取得した後、マイホフナーとともに、ビーレフェルト大学に移り、助手を勤め、その間、刑法対案グループに属して、諸草案の起草に協力したが、Strafrechtswissenschaft als Sozialwissenschaft — Zur sog. Parallelwertung in der Latensphäre (以下、公刊の予定)により、教授資格を取得し、一九七六年に、フレーメン大学教授となった。

論文

七六 (六一七)

Umweltstrafrecht. JZ 1973, S. 337 ff.

P. 23 ff.

Fehlstart im Umweltstrafrecht. ZRP 8. Jg., 1975, S. 229 ff.

Strafprozessreform in Raten. ZRP 8. Jg., 1975, S. 38 ff.

Eine Bagatelle? ZRP 9. Jg., 1976, S. 268 ff.

ハントマン (Jürgen Baumann)

[刑一七・一・二一 二二五、三・四、一三三、追二一九八、追三  
 五七]

ベントマン (Günter Bemann)

[刑一七・一・二一 一一一、二、三・四、一三三、追二一〇〇、  
 三五八]

一九七六年夏に、ムルリン市の司法大臣に就任した。クルー  
 マンホーナーに次いで、三人目の政治家が誕生したわけである。

論文

代案数授陣は、現在には、エスタブリッシュメントになり、若く  
 代から「年々した人種」を言わねるようになった

Für eine Dienstleistungsstrafe. Festschr. f. Fr. Schaffstein,  
 1975, S. 211 ff.

巻末

Zwangsvollstreckungsrecht. Lehrbuch, 1975.

ブント (Günter Blau)

Konkurs und Vergleich, 1976.

[刑二〇・一〇六、追三五九]

Baumann-Arzt-Weber, Strafrechtsfälle und Lösungen, 4.

巻末

Aufl., 1976.

Schwind — Blau, Strafvolzug in der Praxis, 1976.

巻末

巻末

Zwei Jahre I. StrRG im Verkehrsstrafrecht. Ergänzung zu  
 Schultz in JR 71, 353. JR 1972, S. 60 f.

Die Entwicklung des Strafvolzuges seit 1945 — Tendenzen  
 und Gegen Tendenzen. Schwind — Blau, op. cit., S. 23 ff.

Karl Peters 70 Jahre. JZ 1974, S. 66 f.

Das Vollstreckungsgericht, ebenda, S. 359 ff.

“Glücklichere Menschen” durch Strafrecht? Erwiderung auf  
 die Kritik von Dreher am 4. StrRG. JR 1974, S. 370 ff.

ブント (Hermann Blei)

Les problèmes actuelles posés par la réforme pénitentiaire  
 de 1973 en République fédérale d'Allemagne. RSCDPC, 1974,

[刑一七・一・二一 一一一、二、三・四、一三三、追二一〇〇、  
 三五九]



一九七六年に、新設のハーロー大学教授から招聘を受けたが、ヘルミンに就任した。

著書

Strafrecht I. Allg. Teil, 16. Aufl., 1975.

Strafrecht II. Bes. Teil, 10. Aufl., 1976.

論文

Körperverletzung durch Schädigung der Leibfrucht?

Munch. Medizinische Wochenschr. 1970, S. 741 ff.

Strafrechtsreform auch im Einführungsgesetz! Eine kritische Auseinandersetzung mit Armin Kaufmann, keine neue Reform zur Einführung der alten. JZ 1973, 497. JA 1973, S. 163 ff.

Versuch und Rücktritt vom Versuch nach neuem Recht.

JA 1975, S. 23, 41, 61.

ボニナルパン (Paul Bockelmann)

〔刑一七〇・一〇一 一一一 一 一 三・四 一 三三 一 東一 一〇一 東 四五九〕

著書

Strafrecht. Allg. Teil, 2. Aufl., 1976.

Strafrecht. Bes. Teil I, 1976.

論文

Wilhelm Gallas 70 Jahre alt. JZ 1973, S. 469 f.

西ドイツ刑法手続の現状

Zur Kritik der Strafrechtskritik. Festschr. f. Lange, 1976, S. 1 ff.

※ ヴーム (Alexander Böhm)

一九二九年六月二十四日に、ヘルミンで生まれた。フライブルク、バーゼル、フランクフルトの各大学で法学を学び、一九五一年にフランクフルト、一九五五年にアムステルダムになった。一九五六年から五七年まで、フランクフルト大学助手であったが、一九五六年に、マッセン州の行刑官庁に勤務し、一九六〇年から、ロッケンヘルム少年刑務所長となり、併せて、マッセン州のハイインリッポ・ワツヒャッ刑務官ゼミナルの所長をも兼ねた。その後、教授資格を取得し、一九七五年にマインツ大学教授となった。請求論文は、これまで公刊されたことがない。学位論文は、Die Rechtspflicht zum Handeln bei den unechten Unterlassungsdelikten, 1957年。

著書

Strafvollzug zwischen Tradition und Reform, 1971.

Einführung in das Jugendstrafrecht, 1976.

論文

Behandlung der Verkehrsdelikte in Washington D. C.

Zschr. f. Verkehrssicherheit 1957, S. 149 ff.

Jurist im Strafvollzug. Strafvollzug in Hessen. Festgabe für Prof. Dr. Krebs, 1960, S. 150 ff.

Methodische Probleme der Gleichstellung des Unterlassens

八一 (六一九)

mit der Begehung. Jus 1961, S. 177 ff.

Zur Entwicklung des Jugendstrafrechts seit 1912. ZfStRVo 1962, S. 347 ff.

Die Behandlung in der Anstalt. Schriftenreihe der deutschen Vereinigung für Jugendgerichte und Jugendgerichtshilfen. Neue Folge Heft 5, 1963, S. 83 ff.

Die 5. Arbeitstagung der Vereinigung für Jugendgerichte und Jugendgerichtshilfen am 15. und 16. Oktober 1964 in Wiesbaden. ZfStRVo. 14. Jg., 1965, S. 59 ff.

Judo aus der Sicht des Lehrgangslleiters. ZfStRVo 14. Jg., 1965, S. 65 ff.

Anmerkungen zum Jugendstrafrecht. ZfStRVo 1967, S. 26 ff.

Jugendstrafvollzug. Rollmann (Hrsgg.), Strafvollzug in Deutschland. Situation und Reform, 1967, S. 126 ff.

Gruppenarbeit mit jungen Straffälligen im Jugendstrafvollzug und im Rahmen der Bewährungshilfe — Zusammenfassender Bericht über die Beratungen des Arbeitskreises III. Die Jugendkriminalrechtspflege im Lichte der kriminologischen Forschung, 1969, S. 112 ff.

Jugendkriminalität und ihre Bekämpfung in der sozialistischen Gesellschaft. Ein Tagungsbericht. ZfStRVo Jg., 18, 1969, S. 26 ff.

Gedanken zur Ausbildung der Aufsichtsbeamten. Erziehung zur Freiheit durch Freiheitsentzug. Festschr. f. A. Krebs, 1969, S. 265 ff.

Empfehle es sich, den Jugendstrafvollzug grundlegend zu ändern und ihn durch ein Jugendstrafvollzugsgesetz zu regeln? RdJ 1970, S. 250 ff.

Richterliche Mitwirkung bei Vollstreckung und Vollzug von Freiheitsstrafe. Jus 1971, S. 334 ff.

Neuere Entwicklung im Jugendstrafrecht und im Jugendstrafvollzug. ZSchr. f. prakt. Psychologie 1971, S. 58 ff.

Zu Bedeutung und Erfolg von Berufsausbildung im Jugendstrafvollzug. Die Deutsche Berufs- und Fachschule 1973, S. 267 ff.

Modern Juvenile Codes. — 6. Germany. IJOTCC vol. 1973, p. 184 ff.

Rückfall und Bewährung nach verbüßter Jugendstrafe. RdJBW Jg. 21, 1973, S. 33 ff.

Sonderprobleme des Vollzugs bei Jugendlichen und Jungtätlern. Erhardt — Göppinger, Krim. Geg. Fr. Heft 11, 1974, S. 142 ff.

Auswirkungen eines Jugendhilfegesetzes auf den Jugendstrafvollzug. Überlegungen zur Problematik des Diskussionsentwurfs. ZfStRVo Jg. 23, 1974, S. 29 ff.

Nochmals : Grenzen staatlicher Zwangsbeurteilung gegenüber  
Untersuchungshäftlingen. Jus 1975, S. 287 ff.

Zur gegenwärtigen und künftigen Situation des Aufsichts-  
dienstes. Voraussetzungen für eine veränderte Laufbahnaus-  
bildung des allgemeinen Vollzugsdienstes. ZfStrVo Jg. 24,  
1975, S. 10 ff.

Möglichkeiten und Grenzen der Resozialisierung im Jugend-  
strafvollzug. Schüler-Springorum - Krokowski Jugendkrimi-  
nalität und Resozialisierung, 1975, S. 37 ff.

Zum Problem des Vollzugs kurzzeitiger Jugendstrafen.  
Festschr. f. Schaffstein, 1975, S. 303 ff.

Helmuth Kunkler. Ein Nachruf. ZfStrVo 25. Jg., 1976, S.  
241 ff.

Anstaltsleitung. Blau-Schwind, Strafvollzug in der Praxis,  
1976, S. 109 ff.

フュンク (Hans Jürgen Bruns)

〔采一ヤ・一・一〕' 一〇三' 采一〇一' 采三六〇〕

著書

Strafzumessungslehre, 2. Aufl., 1974.

論文

Ein "neuer" Kommentar zum StGB 1975. GA 1976, S. 129  
ff.

フュンク (Richard Busch)

〔采一ヤ・一・一〕' 一〇三' 采一〇一' 采三六〇〕

Aus der Rechtsprechung des deutschen Bundesgerichtshofes  
in Karlsruhe. SchwZStrR Bd. 90, 1974, S. 92 ff., 428 ff.

Dietch Lang-Hinrichsen zum Gedächtnis. JZ 1975, S. 385.

カロー (Rolf-Peter Callies)

〔采三六〇〕

一六六五三三' 一〇一' 一〇三' 采一〇一' 采三六〇〕

論文

Die Rechtsnatur der „besonderen schweren Fälle“ und  
Regelbeispiele im Strafrecht. JZ 1975, S. 112 ff.

クレーマー (Peter Cramer)

〔采一ヤ・一・一〕' 一〇三' 采一〇一' 采三六〇〕

著書

Unfallprophylaxe durch Strafen und Geldbußen? 1976.

Schönke — Schröder, StGB. 18. Aufl., 1976.

論文

Das Strafsystem des StGB nach dem 1. April 1970. Ein  
Beitrag zur Rechtsentwicklung durch das 1. StRG. Jura  
1970, März Heft.

Überlegungen zur Neugestaltung des Sanktionsrechts im Verkehrsbereich. DAR 1975, S. 225 ff.

※ **デムカー** (Friedrich Dencker)

一九四二年三月一日に、ベルリンに生まれた。ボン大学のフーテンマンに提出した論文 Willensfehler bei Rechtsmittelverzicht und Rechtsmittelzurücknahme im Strafprozess, 1972 により学位を取得し、後、助手を勤めたが、世の急変、同じくフーテンマンの急いで教授資格を得、現在、教授として活躍している。

その論文は、近く公正なものである。Verwertungsverbote im Strafprozess. Ein Beitrag zur Lehre von den Beweisverboten, 1977.

論文

Zu den Voraussetzungen der Untersuchungshaft. NJW 1969,

S. 304 f.

Die Anrechnung der Untersuchungshaft. MDR 1971, S. 627 ff.

Die Bagatelldelikte im Entwurf eines EStGB. JZ 1973, S. 137 ff.

Belehrung des Angeklagten über sein Schweigerecht und Vernehmung zur Person—Anmerkung zu BGH MDR 1974, S. 765 ff. — MDR 1975, S. 359 ff.

※ **ハーベルト** (Udo Ebert)

一九四〇年二月一八日に、ベルリンに生まれた。ハイデルベルグ大学のケラルト・ノロツジニ教授に提出した論文 Die Geschichte des Ediktes de hominibus armatis coactisve, 1968 により学位を取得した。その後、ハナタ教授の助手となり、教授とともに関心を持って大学に移った。一九七三年に、同大学の私講師となったが、教授資格請求論文は、 Untersuchungen zur Struktur und rechtlichen Relevanz des sogenannten Subsumtionsirrtums (未公刊) である。そして、一九七五年に、ビーレンホルト大学教授となった。

著書

Der Überzeugungstäter in der neueren Rechtsentwicklung. Zugleich ein Versuch zu einer Beurteilung de lege lata, 1975.

論文

Vi metusve causa. Savigny-Zeitschrift. Romanistische Ab-  
teilung, 1969, S. 403 ff.

Der praktische Fall. Strafrecht : Die verjüngte Schauspiel-  
erlin. Jus 1970, S. 400 ff.

Der Eid als prozessuales Instrument - Zum Beschluß des  
BVerfG v. 11. 4. 1972. JR 1973, S. 397 ff.

Der Praktische Fall. Strafrecht : Ärztlicher Eifer. Jus  
1976, S. 319 ff.

Fortschritt oder Rückschritt? Bemerkungen zum Verhält-

nis von Rechtsgeschichte und Kriminalpolitik. ZStW. Bd. 89, 1977. (4・世)

### ライゼンベルグ (Ulrich Eisenberg)

〔追田六二〕

論文

Strafvollzug zwischen Sicherung und Kriminaltherapie. Der Bürger im Staate, Bd. 20, 1970, S. 151 ff.

Communauté pénitentiaire. Conseil d'Europe, 1972.

Über sozialtherapeutische Behandlung von Gefangenen. ZStW Bd. 86, 1974, S. 1042 ff.

### ハンヤム (S. W. Engel)

〔追田六二〕

一九一四年一〇月二〇日に、シネッタットガルトに生まれた。インデルンルヒ大学医学部に提出した論文「Über Anfallsparalysen にあり学位を取得し、その後、ハンヤムの主任教官、同大学犯罪学研究所で助手を勤めたが、Zur Metamorphose des Rechtsbrechers. Grundlagen einer Behandlungslehre, 1973 により、教授資格を取得し、現在「研究参与兼教授」である。

論文

Über den Ausdruck der zyklischen Depression. Archiv für Psychiatrie und Neurologie, Bd. 185, 1950, S. 511 ff.

Die depressiven Wellen des Tages. Fortschritte der Neurologie und Psychiatrie, 1957, Heft 6, S. 342 ff.

Über die Gebärd. Studium Generale, 10. Jg., 1957, Heft 5. Forensische Psychotherapie bei Jugendlichen und Heranwachsenden. NJW 1958, S. 613 ff.

Zur phänomenologie von jugendlichen Banden. Deutsche Zeitschrift für gerichtliche Medizin, Bd. 49, 1960, Heft 4.

Zur Psychotherapie von jugendlichen Delinquenten. Acta Criminologicae et Medicinae Legalis Japonica, Vol. 27, No. 2, 1961, p. 3 ff.

Die Zeit des Gefangenen. G. Schaltenbrand (hrsgg.), Zeit in nerverärztlicher Sicht, 1963, S. 59 ff.

Kriminelle Episoden, Streß und ihre Behandlung. Journal of Correctional Medicine, Tokyo, 1963, S. 50 ff. (邦誌・日本の全議に出席し、得た精神医学士及び刑事学士の収獲)

Zur Metamorphose des Rechtsbrechers. Mschr Krim. 49. Jg., 1966, S. 151 ff.

Psychotherapy with Reactive and Chronic Delinquents. Journal of Offender Therapy, vol. 10, 1966, p. 1 ff.

Bemerkungen zum dritten Kongreß der Vereinten Nationen über Verbrechenverhütung und Behandlung Straffälliger im August 1965 in Stockholm. Der Nervenarzt, 38. Jg., 1967, Heft 9, S. 421 ff.

Offender Therapy in Prison and on the Outside. *IJOT*, vol. 11, 1967, p. 43 ff.

Zur Psychopathologie der Eigentumstätter. *SchwZStRR*. Bd. 83, 1967, S. 402 ff.

Psychotherapie im Gefängnis und in der Bewährung. *Universitas*. 22. Jg., 1967, Heft 10, S. 1079 ff.

The Behaviour of the Law-Breaker. *Art and Psychopathology*, 1969, p. 53 ff.

Towards an Integrated Clinical-Dynamic Criminology: A German Report. *IJOTCC* vol. 16, 1972, p. 45 ff.

From the Heidelberg Criminological Institute: A Case Report. *IJOTCC* vol. 16, 1972, p. 138.

Psychotherapy with German Gang-Boys. *IJOTCC*, vol. 17, 1973, p. 250 ff.

Existentialistic Treatment of a German "Drug Clan." *IJOTCC*, vol. 18, 1974, p. 58 ff.

Some Basic Principles of Offender Therapy: I. *IJOTCC*, vol. 19, 1975, p. 11 ff.

カハキツムナカ (Karl Engisch)

[英] 17・1・11' 110〇〇' 川・西' 1 川1 |' 渠一 | 〇〇〇' 渠  
三六川]

論文

Der nächste Schritt. *Festschr. f. Fr. Schaffstein*, 1975, S. 1 ff.

Bemerkungen über Normativität und Faktizität im Ehrbegriff. *Festschr. f. Lange*, 1976, S. 401 ff.

Suizid und Euthanasie nach deutschem Recht. *Eser*(hrsgg.), Suizid und Euthanasie, 1976, S. 312 ff.

エーザー (Albin Eser)

[英] 17・1・11' 110〇〇' 川・西' 1 川1 |' 渠一 | 〇〇〇' 渠  
三六川]

譯論 (非譯)

Eser — Schumann, Forschung im Konflikt mit Recht und Ethik. Zur Problematik von Zeugnisverweigerungsrecht, strafrechtlicher Immunität und freiem Datenzugang des Forschers, 1976.

Eser, Strafrecht I, 1976.

Schönke—Schröder, StGB 18. Aufl., 1976.

Suizid und Euthanasie als human- und sozial wissenschaftliches Problem, 1976.

論文

Zum Eigentumsbegriff im Einziehungsrecht. — Methodenkritische Bemerkungen zu BGH, 1 StR 261/71. *JZ* 1972, S. 141 ff.

Risiken und Privilegien des Forschers - Eine Problemanalyse-, Eser-Schumann (hrsgg.), op. cit., S. 7 ff.

Erscheinungsformen von Suizid und Euthanasie - Ein Typisierungsvorsch. Eser (hrsgg.), op. cit., S. 4 ff.

Neues Recht des Sterbens? Einige grundsätzliche Betrachtungen, ebenda, S. 392 ff.

※ フォーレスト (Johannes Feest)

一九三九年に生まれた。マックス・プランク外国・国際刑法研究所員として活躍し、後、フレイメン大学教授となる。編著や論文の数は必ずしも少なくはないが、学位も教授資格論文もなして教授になつたさうであるが、その思想傾向がフレイメン大学の受け容れられてゐたからであらう。

フォーレストはアメリカで社会学を学び、法社会学的な研究方法を身につけた人であるから、今後、この方面の研究を推進するプロジェクトを指導する研究者に育つかも知れない。しかし、その思想傾向がその大成に妨げとなる契機をばらんでゐるように思われる。

編著

Feest — Lautmann (hrsgg.), Die Polizei. Soziologische Studien und Forschungsberichte, 1971.

Blankenburg—Feest, Profils, Polizisten und Prozesse. Kleinere Beiträge zur empirischen Rechtssoziologie, 1971.

Feest — Blankenburg, Die Definitionsmacht der Polizei.

Strategien der Strafverfolgung und soziale Selektion, 1972.

Brusten — Feest — Lautmann, Die Polizei - eine Institution öffentlicher Gewalt. Analyse, Kritik, empirische Daten, 1975.

Thoss-Lautmann-Feest, Einstufige Juristenausbildung im Bereich strafrechtlicher Sozialkontrolle, 1976.

論文

Die Bundesrichter / Herkunft, Karriere und Auswahl der juristischen Elite. Wolfgang Zapf (hrsgg.), Beiträge zur Analyse der deutschen Oberschicht, 1965, S. 95 ff.

Notizen zur Idee einer Kommentierung des Strafgesetzbuchs in sozialwissenschaftlicher Absicht. Krit. Just. 1970, S. 459 ff.

Idee einer Kommentierung des Strafgesetzbuchs in sozialwissenschaftlicher Absicht. KrimJ 2, 1970, S. 259 ff.

Soziale Kontrolle und abweichendes Verhalten in Betrieben ("Betriebsjustiz"). KrimJ 3, 1971, S. 229 ff.

Kriminologische Forschung in Deutschland und empirische Untersuchungen am Max-Planck-Institut. Tagungsbericht. ZStrW. Bd. 83, 1971, S. 1131 ff.

Bierer-Blankenburg-Feest-Schönleiner-Spiegelberg-Stiller, über die Sanktionswahrscheinlichkeit bei Bankräubern. Blankenburg — Feest (hrsgg.), Profils, Polizisten und Prozesse, 1971, S. 6 ff.

Die Situation des Verdachts. Feest — Lautmann, Die Polizei, op. cit., 1971, S. 71 ff.

Feest — Mezger-Pregizer, Betriebskriminalität und Betriebsjustiz. KrimJ 4, 1972, S. 83 ff.

Kriminologie. Axel Görlitz (Hrsgg.), Handlexikon zur Rechtswissenschaft, 1972, S. 258 ff.

Betriebsjustiz : Organization, Anzeigebereitschaft und Sanktionsverhalten der formellen betrieblichen Sanktionsorgane. ZStrW Bd. 85, 1973, S. 1125 ff.

Johannes u. Christa Feest, Alterskriminalität, Kinderkriminalität. Kaiser — Sack — Schellhoss, Kleines Kriminologisches Wörterbuch, 1974, S. 27 ff., 152 ff.

Pollzeitliche Situationen und die Bagatellisierung von Delikten. Blankenburg (Hrsgg.), Empirische Rechtssoziologie, 1975, S. 56 ff.

※ ノーントー (Gerhard Fezer)

一九三八年一〇月二十九日、バーリン・ヴァルテンランド州のヴァルテンタンに生れた。ヴァルテンタン大学のペンヤン教授と、妻田村の論文。Die Funktion der mündlichen Verhandlung im Zivilprozess und im Strafprozess, 1970 及びその著述の著者。同時、その著述の「Möglichkeiten einer Reform der Revision in Strafsachen. Eine Untersuchung unter besonderer

Berücksichtigung der gegenwärtigen Vorschläge zur Rechtsmittelreform, 1975 により教授資格を取得し、同大学の私講師となった。そして、一九七六年にミュンスター大学の招聘を受け、研究助手兼教授となった。

著書 (共著)

Baumann — Fezer, Beschleunigung des Zivilprozesses, 1970. Die erweiterte Revision — Legitimierung der Rechtswirksamkeit? Inhaltsanalyse eines Jahrgangs unveroöffentlicher Entscheidungen des Bundesgerichtshofs in Strafsachen. Reform der Justizreform, Bd. 3, 1974.

Reform der Rechtsmittel im Strafsachen. Bericht über die Entstehung der gegenwärtigen Rechtsmittelvorschriften und die Bemühungen um ihre Reform, 1974.

論文

Baumann — Fezer, Kritische Anmerkungen zur Zivilprozessbeschleunigungsnovelle. ZRP 1970, S. 127 ff.

Zum gegenwärtigen Stand der Reform des § 218 StGB. GA 1974, S. 65 ff.

Die persönliche Freiheit im System des Rechtsgüterstandes — Zur Problematik eines allgemeinen Nötigungsartbestandes. JZ 1974, S. 599 ff.

Zur Rechtsgüterverletzung bei Drohungen. JR 1976, S. 95 ff.

Zur jüngsten Auseinandersetzung um das Rechtsgut des



§ 240 StGB, GA 1975, S. 353 ff.

Grundfälle zum Verlesungs- und Verwertungsverbot. Jus  
1977. (中絶)

※ フーエルト (Herbert Fiedler)

マーン大学のメーンに提出した論文 Vorhaben und Versuch  
im Strafrecht. Über ein Handlungsmodell der strafrechtlich-  
en Versuchslehre, 1967. この学位を授けられた後、助手を勤めつ  
いた。この人は、本来、論理学に興味を持っていたが、その後  
は、法情報学に力を注ぎ、一九七〇年に、マーン大学の教授となり  
た。教授資格論文は、不明である。

論文

Mathematik und moderne Logik. ARSP vol. 47, 1961, S.553 ff.

Rechenautomaten als Hilfsmittel der Gesetzesanwendung.

Deutsche Rentenversicherung, 1962, S. 148 ff.

Probleme der elektronischen Datenverarbeitung in der  
öffentlichen Verwaltung. Deutsche Rentenversicherung 1964,  
S. 40 ff.

Klug — Fiedler, Die Berücksichtigung der automatisierten  
Gesetzesausführung in der Gesetzgebung. Deutsche Rentenver-  
sicherung 1964, S. 269 ff.

Eindrücke zur Diskussion im Anschluß an die Referate auf  
der Strafrechtslehretagung 1965 in Freiburg. ZStrW Bd. 77,

1965, S. 506 ff.

Juristische Logik in mathematischer Sicht. ARSP vol. 52,  
1966, S. 93 ff.

Rechenautomaten in Recht und Verwaltung. JZ 1966, S. 689  
ff.

Computer für die Justiz. Einige Thesen und Stichworte. JZ  
1968, S. 556 f.

Automatisierung im Recht und juristische Informatik. Jus  
1970, S. 432 ff., 552 ff., 603 ff., 1971, S. 67 ff., 228 ff.

Forschungsaufgaben der Juristischen Informatik. Arthur  
Kaufmann (Hrsgg.), Münchener Ringvorlesung. EVD und  
Recht — Möglichkeiten und Probleme, 1973, S. 229 ff.

Rechtsinformatik und juristische Tradition. Festschr. f. H.  
Welzel, 1974, S. 167 ff.

Methodische Erfordernisse juristischer Informationssysteme.  
Bemerkungen zur Entwicklung von JURIS. Friedrich  
Gebhardt (Hrsgg.), Beiträge zur Methodik juristischer Infor-  
mationssysteme, 1975, S. 7 ff.

※ フィンケ (Martin Fincke)

一九三七年一〇月三〇日に、牧師キルンメー・フィンケの子供と  
して、フランクフルトに生まれた。テュービンゲン、ボン、フリン  
クムルトで法学を学ぶ。一九六〇年から一年間、フランクフルトで

生として、コーネル大学に留学の後、シュンロン大学で学び、一九七三年に第一次国家試験に合格し、その後、レフフェンダールとなり、同時に、東欧法研究所の研究員となり、一九六八年に弁護士となることになった。マウラッハンのもとで助手を勤め、若干の講義を担当した。一九七四年夏学期に、教授資格を取得し、シュリン自由大学、レーゲンズブルク大学で授業を行なった後、一九七六年冬学期に、ヒーンホルト大学教授に任ぜられた。学位論文は、Die aufsichtliche Überprüfung rechtskräftiger Straurteile im Sovetrecht, 1966 年。教授資格論文論文として、その一編は Das Verhältnis des Allgemeinen zum Besonderen Teil des Strafrechts, 1975 年。公平だが、四一 Die Begründung der Beschuldigtenstellung im Strafprozeß. Versuch einer Inkulpationstheorie の標題がなれたい。

### 纏結

Legaler Mord durch Arzneimittelpfprüfung? Strafrechtliche Implikationen des Wirksamkeitsnachweises bei neuen Arzneimitteln, 1976.

### 論文

Die Kontrolle der sowjetischen Verwaltung. a) Ursprünge, Entwicklung, Gegenwart. Jahrbuch f. Ostrecht VI 2, 1965, S. 165 ff. b) Die Zeit der NEP aO VII 1, 1966, S. 129 ff. c) Die Zeit des Stalinismus, aO VII 2, 1966, S. 185 ff. d) Die Gegenwart, aO VIII 1, 1967, S. 81 ff.

Vorschläge zur Standardübersetzung russischer Bezeichnungen für Normativ- und Verwaltungsakte. Jahrb. f. Ostrecht, VIII 1, 1967, S. 267 ff.

Verwertbarkeit von Aussagen des nicht belehrten Beschuldigten. NJW 1969, S. 1014 ff.

Der Verteidiger im sowjetischen Vorverfahren. Jb. f. Ostrecht, XI 2, 1970, S. 53 ff.

Darf sich eine Privatperson bei der Festnahme nach § 127 StPO irren? GA 1971, S. 41 ff.

Die Entwicklung der sowjetischen Kriminalpolitik nach Chrusčev. Sowjetstaat und Sowjetrecht nach Chruschtschow 1971, S. 64 ff.

Noch ein Brief Lenins zur Staatsanwaltschaft. Osteuropa-Recht, 1972, S. 268 ff.

Das Risiko des privaten Festnehmers. Jus 1973, S. 87 ff.

Die Gewißheit als hochgradige Wahrscheinlichkeit. GA 1973, S. 266 ff.

Arrest, Bail, Civil Suit, Costs, Court Records, Defendant, Prescription, Prosecution, Remedies, Restraining Measures, Seizure, Trial, Victim. Encyclopedia of Soviet Law, Lyden, 1973.

Die Kompetenzverteilung zwischen der Union und den Unionsrepubliken auf dem Gebiet der Rechtspflege von 1922



Die Problematik der Lehre vom dolus eventualis.  
Vom klassifikatorischen zum funktionalen Verbrechen-  
begriff.

Wahrscheinlichkeitsbegriffe im Recht.  
Der befangene Staatsanwalt.

ゲールツ (Friedrich Geerds)

〔原一七・一〇一七 一六八 三・四 一三〇 訳三一〇 註 原  
四六四〕

著書

Vernehmungstechnik 5. neu bearbeitete Auflage, 1976.

論文

Zusammenhänge zwischen Wirtschaft und innerer Sicher-  
heit aus kriminologisch - kriminalistischer Sicht. AKrim  
Bd. 158, S. 65 ff.

Über\_mögliche Reaktionen auf Ladendiebstähle. Ein Beispiel  
für das Dilemma der Rechtsentwicklung im Grenzbereich der  
Kriminalität. DRiZ 54. Jg., 1976, S. 225 ff.

ガイェン (Gerd Geilen)

〔原一七・一〇一七 一九六 三・四 一三〇 訳三一〇 註 原  
四六四〕

著書

Euthanasie und Selbstbestimmung, 1975.  
Strafrecht. Allg. Teil, 2. Aufl., 1976.

論文

Sukzessive Zurechnungsfähigkeit, Unterbringung und Rück-  
tritt. — BGH 23, 356. Jus 1972, S. 73 ff.

Zur Abgrenzung zwischen beendetem und unbeendetem  
Versuch. JZ 1972, S. 335 ff.

Zur Problematik der gewaltsamen Entführung (§ 237 StGB).  
JZ 1974, S. 540 ff.

Legislative Erwägungen zum Todesproblem. Eser (hrsgg.),  
Suizid und Euthanasie, 1976, S. 301 ff.

ケッペルト (Klaus B. Geppert)

〔原四六四〕  
一九七六年 京都大学法学部紀要

著書

Freiheit und Zwang im Strafvollzug, 1976.

論文

Zur Abgrenzung von Betrug und Diebstahl, insbesondere in  
den Fällen des sogenannten "Dreiecks - Betruges". Jus 1977,  
S. 69 ff.

キーリントク (Heinz Giehring)

〔追Ⅲ六五〕

一九四〇年二月四日に、ヘルリンで生まれた。一九七〇年に、ヘルリン自由大学のライオンハイムで提出した論文 *Der Missbrauch zur Unzucht unter Aussetzung der Amtsstellung im geltenden Recht* (§ 174 Abs. 1 Nr. 2 1. Alt. StGB) und in der Strafrechtsreform, 1970 により、学位を取得し、ヘルリン自由大学助教授となり、一九七四年には、ハンブルク大学教授となったが、下級学年の学生の講義を担当する授業要員ともいふべき人である。西ドイツの大学改革の落し子といふべき制度でもある。

論文

Strafrechtsnormen und Kriminalität. Skizze einer Lerninheit aus einer Einführungsveranstaltung für den Fachbereich Strafrecht und Kriminalität. KrimJ 1976, S. 114 ff.

ゲムンガー

〔刑一七・一・二、一九六、三・四、一二九、追Ⅱ一〇六、追Ⅲ六五〕

著書 (編著)

Praxis der Begutachtung. Der psychiatrische Sachverständige im Verfahren, 1974.

Kriminologie. Eine Einführung. 3. Aufl., 1976.

Göppinger — Kaiser, Kriminologie und Strafverfahren. Neu-

西ドイツ刑法学の現状

ere Ergebnisse zur Dunkelheldforschung in Deutschland, 1976.

論文

Angewandte Kriminologie im Strafverfahren — Eine vorläufige Mitteilung. Göppinger-Kaiser, op. cit., S. 56 ff.

ゲッセル (Karl Heinz Gassel)

〔追Ⅲ六五〕

論文

Reinhard Maurach zum Gedächtnis. GA 1976, S. 289 f.

Abtreibung als Verwaltungsrecht. JR 1976, S. 1 ff.

Dogmatische Überlegungen zur Teilnahme aus erfolgswahrscheinlichem Delikt nach § 18 StGB. Festschr. f. Lange, 1976, S. 219 ff.

※ グレーブング (Gerhardt Grebing)

一九四二年一月二日に、マールブルク近郊のハルズドルフに生まれた。マールブルクとテュービンゲンで法学を学び、レンダール、アセンアの試験に合格の後、フライブルクに行き、まず、シューラー＝フライエンフェルスのもとで、外国・国際私法研究所の助手となった。その後、イェシエックのもとで、学位論文を準備することとなり、その準備中に、エクス・アン・プロバンヌにある刑事科学・犯罪学研究所に留学した。一九七〇年一〇月以後、フライブルクのマックス・プランク・外国・国際私法研究所の所員

九三 (六四一)

となり、フランス法の研究員となった。一九七一年には、イギリスの教授の助手となつてゐる。一九七四年には、国際刑法学会事務局兼ドイツ国会事務局員となり、併せて、ヨーロッパ委員会刑法改正委員会にも加わつてゐる。

一九七三年の、イギリスの提出した論文 Die untersuchungshaft in Frankreich. Entwicklung, Praxis und Reform, 1974 による学位を取得し、一九七七年五月に、教授資格請求論文を提出した (Die Geldstrafe. Untersuchung der deutschen Geldstrafenreform in rechtsvergleichender Sicht - 米谷文)。

## 著書

Polizei und Staatsanwaltschaft im internationalen Vergleich, 1977.

## 論文

Tagung für Rechtsvergleichung vom 22. - 25. 9. 1971 in Mannheim - Arbeitsitzung der Fachgruppe Strafrechtsvergleichung (Tagungsbericht). JZ 1971, S. 792 ff.

Voies et possibilités d'une justice pénale européenne. Thème de la séance de droit comparé. RSCDPC 1971, p. 1027 ff.

Statistische Angaben über die Untersuchungshaft in Frankreich. Jescheck-Krümpelmann, Die Untersuchungshaft usw., 1971, S. 225 ff.

Wege und Möglichkeiten einer europäischen Strafrechtspflege (Diskussionsbericht). RIDP 1971, p. 96 ff. (Französische

Fassung, ebenda, p. 105 ff.).

Bibliographie du droit pénal européen. RIDP 1971, p. 115 ff.

Der VIII. Internationale Kongreß für Sozialverteidigung vom 18. - 22. 11. 1971 in Paris (Tagungsbericht). ZStrW Bd. 84, 1972, S. 535 ff.

Grebing-Sessar, Frankreich. Jescheck-Löffler, Quellen und Schrifttum des Strafrechts, Bd. 1, Europa, 1972, S. 82 ff.

Die Möglichkeiten der Entschädigung des Opfers einer Straftat im französischen Recht. RIDP 1973, p. 338 ff.

Compte-rendu du Colloque préparatoire de l'Association internationale de droit pénal pour le XI<sup>e</sup> Congrès international de droit pénal 1974 à Budapest sur la question III "L'indemnisation des victimes de l'infraction pénale" (Fribourg-en-Brisgau, 4-6 Octobre 1973). RIDP 1973, p. 366 ff.

Die Geldstrafe. Tagung für Rechtsvergleichung 1973 vom 19. - 22. September 1973 in Hamburg. Bericht über die Arbeitsitzung der Fachgruppe Strafrechtsvergleichung vom 21. September 1973. ZSchrRVergl. 1974, S. 28 ff. (Französische Fassung : L'amende. Journées de l'Association allemande de droit comparé. Séance de droit pénal comparé (Hamburg, 21 septembre 1973). RSCDPC 1974, p. 700 ff.

Die Wiederaufnahme des Strafverfahrens in Frankreich.

Jescheck-Meyer, Die Wiederaufnahme des Strafverfahrens usw., 1974, S. 297 ff.

Zur Entwicklung des Untersuchungsrechts in der Bundesrepublik Deutschland. ZSchrVergl. 1975, S. 161 ff. (gekürzte französische Fassung: Les problèmes de détention préventive en République fédérale d'Allemagne. RSCDPC 1975, p. 957 ff.)

Die Entschädigung des durch eine Straftat Verletzten (Tagungsbericht). ZStRW Bd. 87, 1975, S. 472 ff.

Zur Frage der Schaffung eines internationalen Strafgerichtshofs. Bilanz und Perspektiven. GA 1976, S. 97 ff. (französische Fassung: La création d'une Cour pénale internationale: bilan et perspectives. RIDDP 1976, p. 435 ff.)

Recht und Praxis der Tagessatz-Geldstrafe. JZ 1976, S. 745 ff.

Die Diskussionsbeiträge der Strafrechtslehretagung 1975 in Göttingen (Tagungsbericht). ZStRW Bd. 88, 1976, S. 162 ff. Probleme der Tagessatz - Geldstrafe. ZStRW Bd. 88, 1976, S. 1049 ff.

ゲリローニョルト (Gerald Grünwald)

〔刑一七〇・一・二一 一九四三・四 一二六 追一〇七 Ⅲ 六六〕

論文

Die Strafprozessreform — Sicherung oder Abbau des Rechtsstaates. Vorgänge 18, 1975, S. 36 ff.

Offene Frage im System der Hauptstrafen. Festschr. f. Fr. Schaffstein, 1975, S. 219 ff.

Bedeutung und Begründung des Satzes »nulla poena sine lege«. Lüderssen-Sack, Abweichendes Verhalten II 1, 1976, S. 232 ff.

ゲハルト (Martin Gschwind)

〔刑一七〇・三・四 一二六 追一〇七 追三六七〕

論文

Die nicht anders abwendbare Lebensgefahr oder große Gefahr dauernden schweren Schadens an der Gesundheit. Beitrag zur Auslegung von Artikel 120 des schweizerischen Strafgesetzbuches. SchwZStR Bd. 71, 1956, S. 366 ff.

Die Verminderung der Zurechnungsfähigkeit in ihrer Bedeutung für den Betroffenen. ZStRW Bd. 88, 1976, S. 66 f.

ハント (Bernhard Hafke)

〔追三六七〕

一九七六年にマンハイム大学教授となった。著書

Tiefenpsychologie und Generalprävention. Eine strafrechts-  
theoretische Untersuchung, 1976.

論文

Zur Problematik der 1. 3-Promille-Grenze - BGH St 21,  
157. Jus 1972, S. 448 ff.

Delictum sui generis und Begriffsjurisprudenz. Jus 1973, S.  
402 ff.

Wird das materielle Strafrecht von dem geplanten Straf-  
vollzugsgesetz unterlaufen? MschrKrim. 58, Jg., 1975, S. 40 ff.  
Gibt es ein verfassungsrechtliches Besserungsverbot? Zur  
rechtsschöpferischen Funktion von Angst. MschrKrim. 58,  
Jg., 1975, S. 246 ff.

Einschränkung des Beschlagnahmeprivileges des Verteidi-  
gers durch den Rechtsgedanken der Verwirkung? NJW 1975,  
S. 808 ff.

Unterlassung der Unterlassung? Zur logischen, ontologisch-  
en und teleologischen Kritik des Umkehrprinzips bei Armin  
Kaufmann. ZStrW Bd. 87, 1975, S. 44 ff.

Über den Widerspruch von Therapie und Herrschaft exem-  
plifiziert an grundlegenden Bestimmungen des neuen Strafvoll-  
zugsgesetzes. ZStrW Bd. 88, 1976, S. 607 ff.

ニナノ (Ernst-Walter Hanack)

【刑一七・一・二一 一九三一 三・四 一一九 追一 一〇八 追  
三六八】

論文

Teilurteil und Rechtsmittelsumme. ZZP Bd. 72, 1959, S. 350  
ff.

Bedürfnis und Methodenkritik einer Justizreform. ZZP  
Bd. 87, 1974, S. 405 ff.

Sozialtherapie und Unterbringung im psychiatrischen Kran-  
kenhaus nach § 63 StGB n. F. Bemerkungen zum Beschluß des  
OLG Karlsruhe vom 13. 5. 1975. JR 1976, S. 441 ff.

ハツプラー (Winfried Hassemer)

【鳴一〇九 真三六八】

邦譯

Kaufmann — Hassemer, Einführung in die Rechtsphiloso-  
phie und Rechtstheorie der Gegenwart, 1977.

論文

Kriminalsoziologische Paradigmata. JZ 1976, S. 164 ff.

Eltscheid — Hassemer, Strafe ohne Vorwurf. Lüderssen—  
Sack, Abweichendes Verhalten. II 1, 1976, S. 266 ff.

Die Mordmerkmale, insbesondere 》 heimtückisch und nied-  
rige Beweggründe(—BGHSt 23, 119. Lüderssen-Sack, op. cit.,  
S. 315 ff.



Konstanten kriminalpolitischer Theorie. Festschr. f. Lange, 1976, S. 501 ff.

Rechtssystem und Kodifikation : Die Bindung des Richters an das Gesetz. Kaufmann-Hassemmer, op. cit., 1977, S. 72 ff.

※ ハートマン (Wolfgang Heinz)

一九四二年に生まれた。マールラントガーの助手や勤労の証明ungsgründe der Anzeigebereitschaft des Opfers. Ein kriminologischer Beitrag zum Problem der differentiellen Wahrscheinlichkeit strafrechtlicher Sanktionierung, 1972 という論文で学位を取得した。その後、研究を続けつつだが、一九七六年一月に教授資格を取得した。その論文は「Kriminalstatistik. Entwicklung, Probleme und Perspektiven であり、近々公刊の予定であるという。アウグスブルク大学とロンスタット大学から招聘されたが、一九七六年夏学期に、ロンスタット大学教授となった。

論文

Kriminalität und Massenmedien. Botschaft und Dienst. Monatsschr. f. Erwachsenenbildung, Jg., 24, 1970, S. 19 ff.

Die neue Polizeiliche Kriminalstatistik auf EDV - Basis. Terminologie, Gliederung und Zahlweise. Krim. 26. Jg., 1972, S. 148 ff.

Bestimmungsgründe der differentiellen Wahrscheinlichkeit strafrechtlicher Sanktionierung bei Unzucht mit Kindern

西トヘン刑法学の現状

(§ 176 Abs. 1, Ziff. 3 StGB). MschrKrim. 55. Jg., 1972, S. 116 ff.

Entwicklung, Aufgabe und Probleme der Kriminalstatistik. ZStrW Bd. 84, 1972, S. 806 ff.

Die Polizeiliche Kriminalstatistik in den Bundesländern und in Westberlin. Synopse der auf Länderebene zusätzlich erfaßten Merkmale. Krim. 28. Jg. 1974, S. 62 ff., 122 ff.

Das System der Strafrechtspflegestatistiken: Koordination als Aufgabe und Problem. Allgemeines Statistisches Archiv, 1975, S. 95 ff.

Bekanntgewordene Kriminalität und praktische Erkenntnisinteressen. Erwägungen zur Umsetzung amtlicher Kenntnisse über Kriminalität in numerische Informationen. Mschr Krim. 58. Jg., 1975, S. 225 ff.

Kriminalitätstheorien. Jung : Fälle zum Wahrfach Kriminologie, Jugendstrafrecht, Strafvollzug, 1975, S. 16 ff.

ホルター (Joachim Hellmer)

〔刑一七・一・二一 一八八 三・四 一二八 追一 一〇九 三六九〕

論文

Massenkriminalität. Die Polizei, 63. Jg., 1972, S. 333 ff., 385 ff.

九七 (六四五)

Probleme bei der sozialen Diagnose und Therapie der Jugendkriminalität. Deimling — Häußling, Erziehung und Recht im Vollzug der Freiheitsstrafe, 1974, S. 139 ff.

Der Einfluß des Fremdverkehrs auf Kriminalität dargestellt an einem Kurort im Mittelgebirge. MschrKrim. Jg. 58, 1975, S. 174 ff.

Ursachen der Jugendkriminalität(Ätiologie). RdJBW 1975, S. 65 ff.

Kriminalität und Identität. Festschr. f. Lange, 1975, S. 573 ff.

ヘンケル (Heinrich Henkel)

【罪一・一・一〇】 罪三六九】

羅文

Recht und Wert. Festschr. f. Fr. Schaffstein, 1975, S. 13 ff.

ルディゲル (Rüdiger Herren)

【罪一・一・一〇】 罪三六〇】

羅文

Die praktische Bedeutung der Kriminologie für die Kriminalistik. AKrim Bd. 157, 1976, S. 4 ff.

Der Kriminalist als Menschenkennner. AKrim Bd. 158, 1976,

S. 129 ff.

ジョアヒム (Joachim Herrmann)

【罪一・一・一〇】 罪三六〇】

羅文

The Role of Compulsory Prosecution and the Scope of Prosecutorial Discretion in Germany. The Univ. Chicago Law Review, vol. 41, 1974, p. 468 ff.

Strafprozeßreform in den Vereinigten Staaten. Koll. Str. Vgl., 1975, S. 25 ff.

Die Strafprozeßreform vom 1. 1. 1975. Jus 1976, S. 413 ff.

ディエトリッヒ (Rolf Dietrich Herzberg)

【罪三六〇】

羅文

„Ne bis in idem“ und zur Sperrwirkung des rechtskräftigen Strafurteils. Jus 1972, S. 113 ff.

Eingehungsbetrug und Vorteilsabsicht beim Erschleichen von Warenlieferungen zur Belästigung Dritter - Bay OBLG JZ 1972, 25, Jus 1972, S. 185 ff.

Konkurrenzverhältnisse zwischen Betrug und Erpressung - BGHSt 23, 294, Jus 1972, S. 570 ff.

Grundfälle zur Lehre von Täterschaft und Teilnahme. Jus

1976, S. 40 ff.

Die Problematik der „besonderen persönlichen Merkmale“ im Strafrecht. ZStW Bd. 88, 1976, S. 68 ff.

レイハナル・P・ユンペル (Reinhard v. Hippel)

〔刑ニ〇〇〕 刑ニヤリ〕

著書

Reform der Strafrechtsreform. Maßregeln der Besserung und Sicherung, 1976.

論文

Die Strafzumessung und ihr Ruf. Festschr. f. Lange, 1976, S. 285 ff.

ユアンロ (Hans Joachim Hirsch)

〔刑一ヤ・一・二二〕 一八二二 三・四〇 一一二六 刑ニ一 一一三二 刑ニヤリ〕

論文

Hans Welzel zum 70. Geburtstag. JR 1974, S. 102 f.  
Gegenwart und Zukunft des Privatklageverfahrens. Festschr. f. Lange, 1976, S. 815 ff.

ホーニツユ (Richard Honig)

〔刑一七・一・二二〕 一八二二 追一 一一三三 追三 七二〕

西ドイツ刑法学の現状

論文

Die Intimsphäre als Kriterium strafbaren Begehrens durch Unterlassen. Festschr. f. Fr. Schaffstein, 1975, S. 89 ff.  
Billigkeitsabwägungen in Verfahrensurteilen des Bundesgerichtshofs. Festschr. f. Lange, 1976, S. 805 ff.

ホムハ (Eckhard Horn)

〔刑ニヤリ〕

著書 (共著)

Systematischer Kommentar StGB. Bd. 1, Allg. Teil 1975, Bd. 2. Bes. Teil, 1976.

Die Strafrechtlichen Sanktionen. Eine systematische Darstellung für die Praxis der Strafrechtspflege, 1975.

論文

Wider die „doppelspurige“ Strafhohezumessung. Festschr. f. Fr. Schaffstein, 1975, S. 241 ff.

Geldstrafe bei Verheirateten : Ausgang vom halben Nettoeinkommen? JZ 1976, S. 585 ff.

ルハナカ (Joachim Hruschka)

〔刑一ヤ・三・四〕 一一二六 刑ニ一 一一四〇 刑ニヤリ〕

著書

Struktur der Zurechnung, 1976.

論文

Methodenprobleme bei der Tatzurechnung trotz Schuldmfähigkeit des Täters. Zugleich eine Apologie des Art. 12 SchwStGB. SchwStzR. Bd. 90, 1974, S. 48 ff.

※ ユーナーフェルト (Peter Hünert)

一九三八年四月一日に、ザクセン州のフライブルクに生まれた。フライブルク大学で法律学を学び、一九六〇年、一九六七年にそれぞれ、第一次、第二次国家試験に合格した。その間、学位論文の準備のため、ポルトガルのリスボン大学とロンドン大学に留学した。一九六五年に、イェヒンタ教授の助手となり、一九六七年に学位を取得した。論文は、Die Entwicklung der Kriminalpolitik in Portugal. である。一九六六年から、フライブルクのベック・ブランク・外国・国際刑法研究所の研究員となり、ポルトガル、ブラジル、メキシコ、パネマスの刑事法制の調査を担当している。

此のほかに、教授資格請求論文 Strafrechtsdogmatik in Deutschland und Portugal - Ein rechtsvergleichender Beitrag zur Verbrechenslehre und ihrer Entwicklung in einem europäischen Zusammenhang を提出した。

※ ヒューペ (Erich Hüpe)

一九三二年三月一九日に、ミンデンに生まれた。マールブルク大

学の博士を提出した論文 Falsum, fraud und stellionatus im römischen und germanischen Recht bis zur Rezeption, 1967. により学位を取得し、後、助手を勤めたが、一九七二年に同大学研究参与兼教授となり、今日に至っている。クヤム州の教授資格論文がなす者でも、授業をもつる。

著書

Das System der Allgemeinen Strafrechtslehre, 1970.

論文

Hall - Hüpe, Die Wiederholung des Klagerzwingungsverfahrens. JZ 1961, S. 360 ff.

Fälschungsdelikte, in: Handwörterbuch zur Rechtsgeschichte, Bd. 1, 1974.

Rechtlich Grenzen der Behandlung. Schüler-Springorum-Krokowski, Jugendkriminalität und Resozialisierung, 1975, S. 90 ff.

ヘーガー (Herbert Jäger)

〔刑一七・一・二、一八一・三・四、一二五、追一・一二五、追三十三〕

論文

Psychologie des Strafrechts und der strafenden Gesellschaft. ft. Lüderssen - Sack, Abweichendes Verhalten II 1, 1976, S. 107 ff.

ヤコブス (Gunter Jakobs)

[判三三一一一、判三三三三三]

解説

Schuld und Prävention, 1976.

論文

Verfassungsbeschwerde gegen die Art der Begründung gerichtlicher Entscheidungen. JZ 1971, S. 279 ff.

ヤン・ヘンリッヒ (Hans-Heinrich Jescheck)

[判一三〇・一・一三、一三二・三・四、一一三、判三〇一・一三、判三〇三・一・一三]

解説 (譯解)

Jescheck — Löffler, Quellen und Schrifttum des Strafrechts, Bd. II. 1. Lieferung, 1973; 2. Lieferung, 1976.

論文

Das Strafrecht nach dem Truppenvertrag. ZStW Bd. 65, 1953, S. 51 ff.

Beschlagnahme periodischer Durchschriften in rechtsvergleichender Darstellung. ZStW Bd. 68, 1956, S. 651 ff.

Die internationalen Wirkungen der Strafurteile. ZStW Bd. 76, 1964, S. 172 ff.

Rechtsvergleichung in Max-Planck-Institut für ausländisches und internationales Strafrecht. ZStW. Bd. 79, 1967,

S. 128 ff.

Modern Criminal Policy in the Federal Republic of Germany and the German Democratic Republic. Crime, Criminology and Public Policy. Essay in Honour of Sir Leon Radzickowicz, 1974, p. 509 ff.

Das neue deutsche Strafrecht im internationalen Zusammenhang. Max-Planck-Gesellschaft Jahrbuch 1975, S. 49 ff.

Richard Lange zum 70. Geburtstag. ZStW Bd. 88, 1976, S. 345 ff.

Das neue deutsche Strafrecht im Vergleich mit dem polnischen Recht. ZStW Bd. 88, 1976, S. 467 ff.

Deutsche und österreichische Strafrechtsreform. Festschrift. Lange, 1976, S. 365 ff.

ヤン・ヘンリッヒ (Hans-Heike Jung)

[判三三三三三]

譯解

Fälle zum Wahlfach Kriminologie, Jugendstrafrecht, Strafvollzug, 1975.

論文

Einführung in das Studium der Wahlfachgruppe „Kriminologie, Jugendstrafrecht, Strafvollzug“. Jung, Fälle zum Wahlfach op. cit., S. 1 ff.

Möglichkeiten und Grenzen eines Behandlungsvollzuges, *ibid.*, S. 175 ff.

Behandlung und Sicherheit und Ordnung, *ibid.*, S. 187 ff.

Weiterbildung der Gefangenen - Eine Aufgabe des Vollzugs.

ZfStW Jg. 24, 1975, S. 136 ff.

グンター (Günther Kaiser)

【罪と人・社会・国家の関わり】  
罪と人 (罪と人)

Stand und Entwicklung der kriminologischen Forschung in Deutschland, 1975.

Genetics and Crime, 1975.

Kriminologie. Eine Einführung in die Grundlagen, 3. Aufl., 1976.

Kaiser - Mezger-Pregier, Betriebsjustiz, 1976.

Göppinger-Kaiser, Kriminologie und Strafverfahren. Neuere Ergebnisse zur Dunkelfeldforschung in Deutschland. Krim Geg. Fr. Hef, 12, 1976.

問題

Probleme, Aufgaben und Strategien kriminologischer Forschung heute. ZStW Bd. 83, 1971, S. 881 ff.

Tasks and Activities of the Criminological Research Unit

at the Max-Planck-Institut. Act. Crim. Med. Leg. Jap. Vol. 41, 1975, p. 221 ff.

Kriminologische Aspekte der Erpressung. Gewalkriminalität und Erpressung. Tagungsberichte, 1972 u. 1974, 1975, S. 80 ff.

Strafrechtsvergleichung und vergleichende Kriminologie. Koll. Str. Vgl., 1975, S. 79 ff.

Aufgaben und Rolle der Kriminologie—unter besonderer Berücksichtigung des deutschsprachigen Bereiches im Vergleich mit den angloamerikanischen Ländern. Neue Perspektiven in der Kriminologie, 1975, S. 13 ff.

Jugendstrafrecht oder Jugendhilferecht. Tendenzen in der Entwicklung des Jugendrechts. ZRP 8. Jg., 1975, S. 212 ff.

Recent Developments in German Penal Policy. IJCP vol. 4, 1976, p. 193 ff.

Was ist eigentlich kritisch an der "kritischen Kriminologie"? Festschr. f. Lange, 1976, S. 521 ff.

Role and Reaction of the Victim and the Policy of Diverston in Criminal Justice Administration. Criminology between the Rule of Law and the Outlaws. Volume in Honor of Willem H. Nagel, 1976, P. 159 ff.

Ansprache zur Begrüßung und Eröffnung. Göppinger-Kaiser, op. cit., S. 1 ff.

アルミン・カウフマン (Armin Kaufmann)

『刑一七・一・二一 一七四』 漢一〇一八 漢三七六

論文

Hans Welzel 70 Jahre. JZ 1974, S. 237 f.

アルトゥール・カウフマン (Arthur Kaufmann)

『刑一七・一・二一 一七六』 漢一〇一八 漢三七六

著書 (編著)

Tendenzen im Rechtsdenken der Gegenwart, 1976.

Kaufmann-Küchenhoff-Zippelius, WEX Rechtsphilosophie,

1976.

Kaufmann-Hassener, Einführung in die Rechtsphilosophie und Rechtstheorie der Gegenwart, 1977.

編著

Lebenslänge. Radius, 1975, S. 44 ff.

Schuldprinzip und Verhältnismäßigkeitsgrundsatz. Festschr.

f. Lange, 1976, S. 27 ff.

Friedrich Carl von Savigny. Enzykl. Die Götten der Weltgeschichte, Bd. 7, 1976, S. 402 ff.

Prüfungsgespräch über Widerstandsrecht. Kaufmann us.,

op. cit., 1976, S. 139 ff.

Rechtsphilosophie, Rechtstheorie, Rechtsdogmatik. Kauf-

mann-Hassener, op. cit., 1977, S. 1 ff.

Recht und Gerechtigkeit in schematischer Darstellung.

ebenda, S. 273 ff.

ヒルデ・カウフマン (Hilde Kaufmann)

『刑一七・一・二一 一七四』 漢一〇一八 漢三七六

編著

Jugendliche Straftäter und ihre Verfahren, 1975.

論文

Die Kriminalität Jugendlicher und wir : Repression oder Vorbeugung durch Erziehung, 1974.

Die Gefängnissubkultur. Deimling — Häußling : Erziehung und Recht im Vollzug der Freiheitsstrafe, 1974, S. 105 ff.

Stratvollzugsreform und Klassifikation. Festschr. f. Lange, 1976, S. 587 ff.

ハンス・ケーナー (Hans-Jürgen Kerner)

『漢三三七』

一九七三年に、テュービンゲン大学講師となり、同年、ゴーンフエルト大学教授に招聘された。そして、一九七六年に、ハンブルク大学教授となった。

大へん頭の良し、精力的な若手犯罪学者の一人である。

論文

Kriminalitätsentwicklung und Kriminalstatistik. Jung, Fälle

zum Wahlfach Kriminologie, Jugendstrafrecht, Strafvollzug, 1975, S. 91 ff.

Jack-Kerner, Professional and organized Crime—A comparative Approach. JCP vol. 4, 1976, P. 113 ff.

Strafvollzug und Rückfälligkeit. Zur Konstruktion von Daten in der Strafrechtspflege. KrimJ., 8. Jg., 1976, S. 184 ff.

Die Stellung der Prävention in der Kriminologie. Teil A: Grundlegende Probleme der Kriminalprävention. Teil B: Ansatzpunkte für polizeiliche Präventionsstrategie. Krim. 1376, S. 1 ff., 57 ff.

Normbruch und Auslese der Bestraften. Ansätze zu einem Modell der differentiellen Entkriminalisierung. Göppinger-Kaiser, op. cit., Krim. Geg. Fr. Heft 12, 1976, S. 137 ff.

キーンツェン (Gerhard Kielwein)

〔刑一七・一・一七ノ一七11' 第三七〇〕

論文 (要訳)

Die Strafrechtswicklung in England. ZStrW Bd. 65, 1953, S. 32 ff.

Das neue englische Beleidigungsrecht. ZStrW Bd. 65, 1953, S. 141 ff.

Der Verbruch der Strafklage im englischen Strafverfahren. ZStrW Bd. 68, 1956, S. 163 ff.

キーナツェル (Diethelm Kienapfel)

〔刑一七・一・一七ノ一七11' 三・四ノ一二四' 追二一一九 追三七〇〕

譯書

Einführung in das österreichische Strafrecht. Lernprogramm, 1974.

Strafrecht Allgemeiner Teil. Eine Einführung in programmierter Form, 1975.

Strafrechtsfälle. Anleitung—Aufbaumuster—Falllösungen—Falltechnik, 4. Aufl., 1976.

論文

Probleme der Einheitstäterschaft. Strafrechtliche Probleme der Gegenwart, 1973, S. 63 ff.

Die Garantpflichten (§ 2 österr. StGB): System, Voraussetzungen und Grenzen. JurBl. 1975, S. 13 ff., 80 ff.

Zur Täterschaftsregelung im StGB. Eine Erwiderung auf den gleichnamigen Beitrag von Burgstaller in RZ 1975, 13 ff., 29 ff. ÖRiZ 1975, S. 165 ff.

Die Verletzung der Unterhaltspflicht (§ 198 StGB). ÖRiZ 1976, S. 46 ff.

クレーンケル (Theodor Kleinkechel)

〔第三一ノ一一〇' 第三七六〕



著書

StPO. 32. Aufl., 1975.

論文

Führungsaufsicht. Rechtliche Regelung. Schwind-Blau, Strafvollzug in der Praxis, 1976, S. 408 ff.

クルーグ (Ulrich Klug)

〔刑一七・一・二一〇一七〇一、追一〇一三二一、追三三七九〕

ハンブルク市の司法大臣の答へ。

著書

Aktenstrafrecht, 1975.

論文

Klug-Fiedler, Die Berücksichtigung der automatisierten Gesetzesausführung in der Gesetzgebung. Deutsche Rentenversicherung, 1964, S. 269 ff.

Elektronische Datenverarbeitungsmaschinen im Recht.

Festschr. f. Hermann Jahrreiss, 1964, S. 189 ff.

Rechtfertigung oder Abschaffung des Strafrechts? Deimling u. Häußling, Erziehung und Recht im Vollzug der Freiheitsstrafe, 1974, S. 13 ff.

Die rechtspolitische Bilanz der Freien Demokraten. ZRP 9. Jg., 1976, S. 218 ff.

コールマン (Gunter Kohlmann)

〔刑一七・三・四〇一二四、追一〇一三二一、追三三七九〕

著書

Steuerstrafrecht. 2. Aufl., 1976.

論文

Zur Frage der Vorteilsabsicht bei der Steuerhinterziehung (§ 392 AO). Festschr. f. Lange, 1976, S. 439 ff.

クラウゼ (Friedrich-Wilhelm Krause)

〔刑一七・一・二一〇一六九、追一〇一三二一、追三三七九〕

一九七五年に、ヴェルムップルク大学に転任した。

論文

Vollstreckung von Vollstreckungshatbefehlen in der Wohnung oder den sonstigen Räumen eines unbeteiligten Dritten. NJW 1974, S. 303 ff.

クレーン (Delev Krauß)

〔刑一七・三・四〇一二四、追一〇一三二一、追三三七九〕

論文

Richter und Sachverständiger bei der Bestimmung von Schuld und Sanktion. Jung, Falle zum Wahlfach Kriminologie, Jugendstrafrecht, Strafvollzug, 1975, S. 52 ff.

Das Prinzip der materiellen Wahrheit im Strafprozess.

- Festschr. f. Fr. Schaafstein, 1975, S. 411 ff.  
 Schuldzurechnung und Schuldzumessung als Probleme des  
 Sachverständigenbeweises. Goppinger-Kaiser, op. cit., Krim.  
 Geg. Fr. Hef 12, 1976, S. 88 ff.

### ケントベク (Albert Krebs)

- 『刑一』一〇・一三六、三〇四、一三三三、三〇一、一三三三、  
 三〇〇』

### 論文

Behandlungsziele des Vollzugs der Freiheitsstrafe in Deutschland seit der Aufklärung: Deiming-Häußling, Erziehung und Recht im Vollzug der Freiheitsstrafe, 1974, S. 89 ff.

Fürsorgerziehung als Lebensschulung (Karl Wilker zum 90. Geburtstag). UJ 27. Jg., 1975, S. 541 ff.

Zum Zusammenwirken von Strafvollzug und ehrenamtlicher Hilfe. ZfStrVo 25. Jg., 1976, S. 45 ff.

Nichtdeutsche im bundesdeutschen Strafvollzug. Schwind-Blau, Strafvollzug in der Praxis, 1976, S. 343 ff.

### ※ クロイツナー (Arthur Kreuzer)

一九三八年九月二十六日迄のドイツ人の出生状況。ドイツ人の出生状況に関する論文。『Ärztliche Hilfeleistungspflicht bei Unglücksfällen im Rahmen des § 330c StGB (Strafgesetzbuch)』, 1965』

学位を取得し、その後、助手をひとめ、ドイツ研究財団の教授論文執筆指導係主任となり、一九七五年に犯罪学と刑法の教授資格を取得した。論文『Drogen und Delinquenz — eine jugendkriminalologisch-empirische Untersuchung der Erscheinungsformen und Zusammenhänge』, 1975 年、特定の指導教授はなからず。一九七六年九月に、キール大学教授に就任した。

### 論文

Die unterlassene ärztliche Hilfeleistung in der Rechtsprechung, insbesondere die Untersuchungspflicht des Krankenhausarztes. NJW 1967, S. 278 ff.

Die strafrechtliche Haftung des Krankenhausarztes gegenüber dem Außenpublikum. Med. Klinik 1967, S. 850 ff., 889 ff.

Zuständigkeitsübertragungen bei Verfassungsrichterwahlen und Immunitätsentscheidungen des Deutschen Bundestages. Der Staat, 1968, S. 183 ff.

Die Briefkontrolle in der Untersuchungshaft. GA 1968, S. 236 ff.

Wie schützt das Recht den Arzt vor unnötiger Inanspruchnahme? Therapie der Gegenwart 1969, S. 929 ff.

Zur „Negativfunktion“ der Feststellungen in Bebauungsplänen. Z. f. Miet- und Raumrecht 1969, S. 131 f.

Kontroverse Rechtsprechung zum Schriftenbezug durch Strafgefängnissen — ein Beitrag zur Frage der Einschränkung-

keit von Grundrechten im Strafvollzug—, GA 1970, S. 65 ff.

Rocker-Gruppen-Kriminalität - Betrachtungen zur deutschen Variante eines internationalen Jugend-Phänomens. Mschr Krim. 1970, S. 337 ff., auch in: UJ 1970, S. 407 ff. (Un exemple de délinquance juvénile de groupe 'Les Rockers'. Revue Internationale de Police Criminelle, no. 254, 1972, p. 2 ff.)

Drogenwesen und Kriminalrecht. A. Mergen (Hrsg.), Medizinisch-juristische Grenzfragen Bd. I, 1971, S. 170 ff., auch: Aktuelle Fragen des Drogenwesens in der Jugendkriminalrechtspflege. ZRP 1971, S. 111 ff., auch in: Drogen- und Rauschmittelmißbrauch, 1972, S. 136 ff.

Ärztliche Hilfeleistungspflicht in der Sicht des Strafrechts.

A. Mergen, op. cit., S. 217 ff.

Rocker - als Gegenstand kriminologischen Bemühens - eine Erweiterung auf die Kritik von H. E. Wolf. MschrKrim. 1972, S. 148 ff.

Wie soll man jugendliche Kriminelle behandeln? Radius, 1972, Heft 4, S. 39 ff.

Kriminologische, kriminalpolitische und strafjustizielle Aspekte des Drogenwesens in der Bundesrepublik. H. Schäfer (Hrsg.), Grundlagen der Kriminalstatistik Bd. 9, 1972, S. 243 ff.

Kriminologische und kriminalpolitische Aspekte der Drog-

enproblematik— erste Ergebnisse einer Erkundungsstudie—, Krim. 1973, S. 99 ff., 167 ff.

Apothekeneibrüche und verwandte Delinquenzmuster, Krim. 1973, S. 500 ff., 548 ff.

Aktuelle Fragen der Briefkontrolle bei Untersuchungsgefangenen. NJW 1973, S. 1261 f.

Beschaffen von Drogen durch Rezeptfälschen. Die Polizei 1973, S. 351 ff.

Straßenverkehrsdelinquenz im Zusammenhang mit Drogenmißbrauch. Blutalkohol 1974, S. 329 ff.

Selbstmord und Krankheiten im Zusammenhang mit Drogenmißbrauch. Jugendschutz 1974, S. 81 ff.

Parasitäre Erscheinungsformen der Delinquenz Drogenabhängiger. Krim. 1974, S. 269 ff., 309 ff.

Drogen-Szene und polizeiliche Drogenkontrolle. MschrKrim. 1974, S. 214 ff., auch in: K. H. Reuband (Hrsg.), Rauschmittelkonsum, 1976, S. 125 ff.

Erschleichen ärztlicher Verschreibungen. Med. Klinik 1974, S. 252 ff.

Illegales Herstellen und Fälschen von Drogen, Handel mit gefälschten Drogen. Die Polizei 1974, S. 38 ff.

Der illegale Drogenhandel. Die Polizei 1974, S. 104 ff.

Aggressionsdelinquenz im Zusammenhang mit Drogenmiß-

- brauch. RdJBW 1974, S. 81 ff.
- Drogenmißbrauch und seine Bekämpfung—Bericht über ein internationales Kriminalpolitisches Symposium—Suchtgefahren 1974, S. 206 ff.
- Verleiten junger Menschen zum Drogenmißbrauch. UJ 1974, S. 97 ff.
- Drogenmißbrauch und illegale Drogenbeschaffung in Haftanstalten, Kliniken und anderen Einrichtungen. ZblJRuJW 1974, S. 214 ff.
- Der Drogenmißbrauch und seine Bekämpfung. ZStrW Bd. 86, 1974, S. 379 ff.
- Verfolgung oder Hilfe? K. Wanke (Hrsg.), Drogenkonsum und Abhängigkeit, 1974.
- Delinquenzbelastung bei Fixern. Neue Praxis 1975, S. 163 ff., auch in: Keup (Hrsg.), Mißbrauch chemischer Substanzen, 1975, S. 208 ff., mit dem Titel Delinquenzbelastung und Prädelinquenz bei Drogenkonsumenten, insbesondere Fixern.
- Die Schweigepflicht von Krankenhausärzten gegenüber Aufsichtsbehörden. NJW 1975, S. 2232 ff., auch in: Med. Klinik 1976, S. 1396 ff., 1467 ff., 1520 ff., mit dem Titel "Zur Schweigepflicht von Ärzten öffentlicher Krankenhäuser".
- Schülerbefragung zur Delinquenz. RdJBW 1975, S. 229 ff.
- Schülerbefragung zur Delinquenz—eine Sammelbesprechung.
- Kritik eines nur sozioökonomischen Schichtentdenkens. UJ 1975, S. 431 ff.
- Zur Reform des Drogenstrafrechts—Kritik des Novellierungsautrags zum Betäubungsmittelgesetz—. ZRP 1975, S. 206 ff.
- Über kriminologische Dunkelfeldforschung, Bemerkungen zum Stand, zu Methoden und Problemen dieser Forschung in der BRD. Krim. 1976, S. 145 ff.
- Tatsächliche und polizeilich erfaßte Jugenddelinquenz sowie Betrachtungen zur Bedeutung des Dunkelfeldes. H. Schafer (Hrsg.), Grundlagen der Kriminalstatistik, 1976.
- クニツ (Volker Krey)
- 【脚註】
- コロンハニヤニシテ、一ノコトヲシテ、権限ノアリハ一ノ大ナル勢ニシテ、
- 編輯
- Stratfrecht. Besonderer Teil, Bd. 1 u. 2, 2. Aufl., 1975.
- コロンハニヤニシテ、一ノコトヲシテ、権限ノアリハ一ノ大ナル勢ニシテ、
- Krey-Meyer, Zum Verhalten von Staatsanwaltschaft und Polizei bei Delikten mit Geiselnahme. ZRP 6. Jg., 1973, S. 1 ff.
- Probleme der Notigung mit Gewalt—dargestellt am Bei-

spiel des Fluglotsenstreiks. Jus 1974, S. 418 ff.

Der Fall Peter Lorenz—Probleme des rechterfürgenden Notstandes bei der Auslösung von Geiseln. ZRP 8. Jg., 1975, S. 97 ff.

ユニナハニムナハ (Justus Krümpelmann)

〔判三〇一〕

羅文

Bericht über ein Kolloquium anläßl. der konstituierenden Sitzung des Kuratoriums des Max-Planck-Instituts für ausländisches und internationales Strafrecht, Freiburg i. Br., am 28. II. 1967. ZStrW Bd. 79, 1967, S. 390 ff.

Probleme der Untersuchungshaft im deutschen und ausländischen Recht. ZStrW Bd. 82, 1970, S. 1052 ff.

Vorsatz und Motivation. Koll. Str. Vgl. 1975, S. 53 ff.

Vorsatz und Motivation. ZStrW Bd. 87, 1975, S. 888 ff.

Dietrich Lang-Hinrichsen zum Gedächtnis. ZStrW Bd. 88, 1976, S. 1 ff.

Die Neugestaltung der Vorschriften über die Schuldfähigkeit durch das Zweite Strafrechtsreformgesetz vom 4. Juli 1969. ZStrW Bd. 88, 1976, S. 6 ff.

Aktuelle Probleme des Haftrechts in empirischer und verfahrensrechtlicher Sicht. Goppinger-Kaiser, op. cit., Krim.

Geg. Fr. Heft 12, 1976, S. 44 ff.

キナ一キ (Hans Heiner Kühne)

〔判三〇〇 | | | | 判三〇一〕

羅文

Hans Heiner Kühne-Hennige Schwaiger, Zum Recht der Heilbehandlung durch Psychologen, 1976.

羅文

Das Urteil des Bundesgerichtshofs zur Entlohnung der Arbeit von Strafgefangenen. EntGRZ 2. Jg., 1975, S. 230 ff.

Drogenprobleme und ihre Bekämpfung in südost-asiatischen Ländern. Krim. 1975, S. 65 ff., 116 ff.

Drogenberatungsstelle in der Bundesrepublik Deutschland. MschrKrim. 1975, S. 109 ff.

Konzipierung empirischer Untersuchungen und ethische Implikationen. Jung, Fälle zum Wahlfach Kriminologie, Jugendstrafrecht, Strafvollzug, 1975, S. 121 ff.

Prostitution als bürgerlicher Beruf? ZRP 8. Jg., 1975, S. 184 ff.

Zu Fragen eines Berufsrechts für Diplompsychologen für Psychotherapie. Kühne — Schwaiger, op. cit., S. 17 ff.

Ethische Fragen beim Einsatz von Forschungsmethoden in der empirischen Sozialforschung. Eser — Schumann, For-

schung im Konflikt mit Recht und Ethik, 1976, S. 353 ff.

S. 1233 ff.

キローパー (Wilfried Küper)

〔追Ⅲ八二〕

一九七六年夏学期から、ハイデルンブルグ大学教授となった。

論文

Die Merkmale „absetzt“ und „absetzen hilft“ im neuen  
Hehlerstatbestand—OLG Köln NJW 1975, 987. Jus 1975, S.  
633 ff.

Zum rechtfertigenden Notstand bei Kollision von Vermög-  
enswerten. JZ 1976, S. 515 ff.

Wahlfeststellung und Anwendung des § 158 StGB bei einan-

der widersprechenden Zeugenaussagen. NJW 1976, S. 1828 ff.

Probleme der „Postpendenzfeststellung“ im Strafverfahren.  
Ein Beitrag zur Logik und Dogmatik der Wahlfeststellung.  
Festschr. f. Lange, 1976, S. 65 ff.

ラックナー (Karl Lackner)

〔刑一七・三・四'二〇一'追Ⅱ一二二四'追Ⅲ八二〕

論文

Gedanken zur Reform des Tatbestandes der Unfallflucht.  
ZVR 20. Jg., 1975, S. 118 ff.

Die Neuregelung des Schwangerschaftsabbruchs. NJW 1976,

トハヤ (Ernst Joachim Lampe)

〔刑一七・三・四'二〇〇'追Ⅱ一二二五'追Ⅲ八三〕

論文

Ermittlungszuständigkeit von Richter und Staatsanwalt  
nach dem 1. StVRG. NJW 1975, S. 195 ff.

Strafrechtlicher Schutz gegen irreführende Werbung (§ 4  
UWG). Festschr. f. Lange, 1976, S. 455 ff.

Strafrechtliche Probleme der progressiven Kundenwerbung.  
GA 1977, S. 33 ff.

ラング＝ヒンリッヒェン (Dietrich Lang-Hinrichsen)

〔刑一七・三・四'一九九'追Ⅱ一二二五'追Ⅲ八三〕

一九七五年三月二日、心筋梗塞のため死去した。七三歳であつた。西ドイツの刑法学者としては、国際会議に数多く出席し、得意な語学力で活躍していた。最近の若い世代には、このように国際的な幅広い活動をする者が増えつつあるが、その世代が育つまで、充分に、橋渡しの役をつとめたといふべきである。死の直前まで、なされた仕事をしていった態度は、ちよすがである。

ラング＝ヒンリッヒェンに関する追悼文には、次のものがある。  
Richard Busch, Dietrich Lang-Hinrichsen zum Gedächtnis. JZ  
1975, S. 385 ; Eduard Dreher, Dietrich Lang-Hinrichsen †.

NJW 1975, S. 1262 ; Justus Krümpelmann, Dietrich Lange-Hirrichsen zum Gedächtnis. ZStRW Bd. 88, 1976, S. 1 ff.

論文

Epoche und Schuld. Über den von strafrechtlicher Schuldbeurteilung ausgeschlossenen Raum. Recht und Wirtschaft in Geschichte und Gegenwart. Festschr. f. Johannes Bärman, 1975, S. 583 ff.

トハチ (Richard Lange)

〔刑一七・三・四'一九七' 増一〇二二六' 増三〇八三〕

一九七六年四月二十九日、七〇歳の誕生日を迎えた。この日の後、執筆活動に従事しよう。七〇歳の誕生日を祝うことは、祝賀文ではなく、次のようなものである。Hans-Heinrich Jescheck, Richard Lange zum 70. Geburtstag. ZStRW Bd. 88, 1976, S. 345 ff. ; Claus Roxin, Richard Lange siebzig Jahre. JZ 1976, S. 252 ; Hans Joachim Hirsch, Richard Lange zum 70. Geburtstag. JR 1976, S. 150 f. ; Eduard Dreher, Richard Lange zum 70. Geburtstag. NJW 1976, S. 707.

七〇歳の誕生日に、Festschrift für Richard Lange zu seinem 70. Geburtstag, 1976, を贈ることにした。

論文

Das Problem der Objektivität im Recht. Universitätsstage. Marxismus—Leninismus. Geschichte und Gestalt, 1961, S. 104 ff.

西ドイツ刑法学の現状

Privilegierung des Ladendiebes? JR 1976, S. 177 ff.  
Der „gezielte Todesschuß“. Zum Musterentwurf eines Polizeigesetzes. JZ 1976, S. 546 ff.

トハチ (Winrich Langer)

〔増三〇八四〕

論文

Vorsatztheorie und strafrechtliche Irrtumsregelung. — Zur Kompetenzabgrenzung von Strafgesetzgebung, Verfassungsgesetzbarkeit und Strafrechtswissenschaft. GA 1976, S. 193ff.  
Zum Begriff der „besonderen persönlichen Merkmale“.  
Festschr. f. Lange, 1976, S. 241 ff.

ツトフツトフ (Heinz Lefrenz)

〔展一七・三・四'一九七' 増一〇二二六' 増三〇八四〕

論文

Die Neugestaltung der Vorschriften über die Schuldfähigkeit durch das Zweite Strafrechtsreformgesetz vom 4. Juli 1969. ZStRW Bd. 88, 1976, S. 40 ff.

※ トフツトフ (Rudolf Leibinger)

一九二八年八月五日、シエボンヌマルテオ・ツァリヤノビッチと結婚した。ライニンゲン大学で法學を修了。一九五〇年、Streitgegen-

stand und Rechtskraft in Ehesachen といふ論文で学位を取得した後、一九五七年から六五年まで、マックス・プランク・外国・国際刑法研究所員として、主に北欧法の研究員をしていたが、一九六六年から七四年まで、バーデン・ヴュルテン・ベルグ州司法省、さうに高等検察庁の検事となった。一九七四年に、ロンスタット大学の招聘をうけて、教授となった。教授資格論文はなし。

論文

Die ungarische Strafprozessordnung. ZStrW Bd. 69, 1957, S. 674 ff.

Tagung für Rechtsvergleichung 1965, Kiel 8. - 11. 9. JZ 1966, S. 536.

La protection des droits des personnes suspectées, inculpées ou accusées d'infractions à la loi pénale. Allemagne Fédérale. RIDP vol. 37, 1966, p. 11 ff.

Hans-Heinrich Jescheck zum 60. Geburtstag. Koll. Str. Vgl., 1975, S. 9 ff.

シュタナー (Theodor Lenckner)

〔採一七・三・四、一六三、採二一・一一八、採三〇八四〕

著書 (共著)

Schonke—Schröder, StGB, 18. Aufl., 1976.

論文

Zum Tode von Horst Schröder. JZ 1976, S. 799 f.

※ ロース (Fritz Loos)

ボン大学のヴァルツェルに提出した Zur Wert- und Rechtslehre Max Webers, 1970 という論文により学位を取得し、後、助手となった。一九七六年に、同大学私講師、そして直ちに、ゲッティンゲン大学教授となった。教授資格請求論文は、まだ公刊されていない模様である。

論文

Zum „Rechtsgut“ der Bestechungsdelikte. Festschr. f. H. Welzel, 1974, S. 879 ff.

リーターマン (Klaus Lüderssen)

〔採二一・二九、採三〇八五〕

譯著

Lüderssen — Sack, Abweichendes Verhalten. Die selektive Normen der Gesellschaft. Bd. 1, 1975.

Lüderssen — Sack, Abweichendes Verhalten II 1. Die gesellschaftliche Reaktion auf Kriminalität, 1976.

論文

Wolfgang Preiser zum 70. Geburtstag. JZ 1973, S. 132 f.  
Strafrecht und Dunkelziffer. Lüderssen — Sack, Abweichendes Verhalten I, op. cit., S. 244 ff.

Die empirische Seiten des rechtlichen, insbesondere des strafrechtlichen Werturteils. Lüderssen—Sack, Abweichendes



Verhalten, II 1, op. cit., S. 139 ff.

Dialektik, Topik und „konkretes Ordnungsdenken“ in der  
Jurisprudenz. Festschr. f. Lange, 1976, S. 1019 ff.

マインホーファー (Werner Maihofer)

〔刑一七・三・四'一九〇'追Ⅱ二七一'追Ⅲ八五〕

論文

Freiheit und Sicherheit im Rechtsstaat. DRIZ 54, Jg., 1976,  
S. 161 ff.

マインワルト (Manfred Maiwald)

〔刑一七・三・四'一八八'追Ⅱ二七一'追Ⅲ八五〕  
一九七六年に、マッティンゲン大学教授となった。

編著

Wege zur Strafrechtsreform, 1976.

論文

Zur gerichtlichen Fürsorgepflicht im Strafprozess und ihren  
Grenzen. Festschr. f. Lange, 1976, S. 745 ff.

マルクワルト (Helmut Marquardt)

〔追Ⅲ八六〕

共著

Jugendliche Straftäter und ihre Verfahren, 1975.

マルクス (Michael Marx)

〔追Ⅲ八六〕

論文

Marx-Jochen Schneider, Sicherheit der Information und  
Strafrecht. Strafrechtliche Aspekte der Datensicherung und der  
Computerkriminalität. Informationsrecht und Informations-  
politik, 1976, S. 217 ff.

Marx-Miyazawa, Bedingte Entlassung "Lebenslänglicher"  
in Japan. MschrKrim. 59, Jg., 1976, S. 181 ff.

Systeme des 19. Jahrhunderts. Kaufmann-Hassemer, Einf-  
ührung in die Rechtsphilosophie und Rechtslehre, 1977, S.  
89 ff.

Interessenjurisprudenz, ebenda, S. 97 ff.

マントマン (Reinhart Maurach)

〔刑一七・三・四'一八八'追Ⅱ二七一'追Ⅲ八六〕

一九七六年六月一日に、旅行先のイタリアのガルトネーで心臓  
麻痺のため急死した。七四歳であった。追悼文として、Karl-Heinz  
Gössel, Reinhart Maurach zum Gedächtnis. GA 1976, S. 289  
f.; Friedrich Christian Schroeder, Reinhart Maurach t. JZ  
1976, S. 534; Heinz Zipf, Reinhart Maurach t. NJW 1976,  
S. 1732. 各著者の名だ。

論文(追加)

Neuere Kriminalpolitische Tendenzen im sowjetischen Strafrecht. ZStrW Bd. 82, 1970, S. 239 ff.

ハイヤー (Hellmuth Mayer)

一九七五年五月一日に『八〇歳の誕生日を祝う』 Wolfgang Nau-cke, Hellmuth Mayer zum achtzigsten Geburtstag, JZ 1975, S. 261 f. が寄せられた。

論文

Zur historischen Kriminologie. Festschr. f. Lange, 1976, S. 597 ff.

メルサン (Armand Mergen)

〔刑一七・三・四 一四八、追Ⅱ七三、追Ⅲ八七〕  
著書(編著)

Die juristische Problematik in der Medizin, 3 Bde, 1971.

Verunsicherte Kriminologie, 1975.

論文

Kriminologische Probleme der Persönlichkeitsstruktur.

Krim. 1975, S. 62 ff.

Moderne Erscheinungsformen im nationalen und internationalen Kriminalitätsbereich. Krim. 1976, S. 296 ff.

Strafrechtsreform. Schuld und soziale Wirklichkeit. Fest-

schr. f. Lange, 1976, S. 627 ff.

Sexuality and Criminal Law in Terms of Anthropological and Social Conflict. Criminology between the Rule of Law and the Outlaws. Volume in Honour of Willem H. Nagel, 1976, p. 139 ff.

※ エルサン・ハイヤー (Jürgen Meyer)

一九三六年三月二十六日に、ケッセルホルンで生まれた。

ケッセルホルン大学のノーターズで提出した論文 Dialektik im Strafprozeß. Eine Untersuchung der Spannungen im Strafprozeß unter besonderer Berücksichtigung der dialektischen Gewinnung der Straftatteile in Kräftefeld der Schlussanträge, 1965 で学位を取得し、助手となった。しかしその後、家庭的な問題によりノーターズのもとから去り、フライブルクのマックス・プランク外国・国際刑法研究所の研究員となった。一九七六年、同大卒の私講師となった。教授資格請求論文は Jescheck—Meyer, Die Wiederaufnahme des Strafverfahrens im deutschen und ausländischen Recht, 1974. の論文。

論文

Präsente Zeugen und Sachverständige nur nach förmlicher Ladung? MDR 1962, S. 540 ff.

Tagung für Beamte des Strafvollzugs 23. bis 25. 1. 1967. JZ 1967, S. 227 f.

Tagung der Strafrechtslehrer in Münster. JZ 1967, S. 710 ff. (紹介、小暮得雄・能勢弘之・シットラスト四〇四・一〇二頁以下、四〇五・六三頁以下、四〇六・一三四頁以下、昭和四三年)

Zum Begriff der Neuheit von Tatsachen oder Beweismitteln im Wiederaufnahmeverfahren. JZ 1968, S. 7 ff.

Bericht über das Kolloquium anlässlich der Sitzung des Kuratoriums des Max-Planck-Instituts für ausländisches und internationales Strafrecht am 16. März 1968 in Freiburg i. Br. ZStRW Bd. 80, 1968, S. 815 ff.

Tagung der Evangelischen Akademie Bad Boll. JZ 1969, S. 154 ff.

Bericht über das Kolloquium „Die Untersuchungshaft im ausländischen und deutschen Recht“ anlässlich der Sitzung des Kuratoriums des Max-Planck-Instituts für ausländisches und internationales Strafrecht am 6. März 1970 in Freiburg i. Br. ZStRW Bd. 82, 1970, S. 1117 ff.

Die Wiederaufnahme des Strafverfahrens in rechtsvergleichender Darstellung. Jescheck—Meyer, op. cit., 1974, S. 729ff. Anstiftung zum Unterlassen. MDR 1975, S. 286 ff. Kritik an der Neuregelung der Versuchsstrafbarkeit. ZStRW Bd. 87, 1975, S. 598 ff.

Diskussionsbericht. Koll. Str. Vgl. 1975, S. 93 ff. Brauchen wir den Kronzeugen? ZRP 9. Jg., 1976, S. 25 ff.

西ドイツ刑法学者の現状

ニーハ (Olaf Miehle)

〔通二七四、通三八七〕

論文

Die Schuldfähigkeit Jugendlicher im Strafrecht der deutschen Demokratischen Republik. Festschr. f. Schaffstein, 1975, S. 353 ff.

ムーネ (Reinhard Moos)

〔通三八七〕

一九七六年よりリンネン大学教授に転任した。

論文

Hundert Jahre österreichische Strafprozeßordnung. Betrachtungen zu einer Festschrift. ÖRiZ 1975, S. 77 ff.

Die Parteilstellung der Staatsanwaltschaft im österreichischen Strafverfahren. Koll. Str. Vgl., 1975, S. 37 ff.

ハイムラー＝ミュラー (Heinz Müller-Dietz)

〔通一七・三・四、一八二、通二七四、通三八八〕

著書

Empirische Forschung und Strafvollzug, 1976. Strafvollzugsrecht, 1976.

論文

Die Situation des Arztes in der Sowjetunion. Universitäts-  
tage 1961. Marxismus — Leninismus. Geschichte und Gestalt,  
S. 143 ff.

Jugendhilferecht oder Jugendkriminalrecht? GA 1975, S.  
193 ff.

Freedom of Conscience and Penal Law. Law and State, vol.  
11, 1975, p. 7 ff.

Jugendgerichtsbarkeit und Sozialarbeit. MschrKrim. 1975,  
S. 1 ff. (auch in : Jugendgerichtsbarkeit und Sozialarbeit.  
Schriftenreihe der deutschen Vereinigung für Jugendgerichte  
und Jugendgerichtshilfen, 1975, S. 27 ff.)

Vollzugsziel und innerer Aufbau der Vollzugsanstalten.  
ZfStrVo Jg., 24, 1975, S. 204 ff.

Grundrechtsbeschränkung im Strafvollzug. BVerfG NJW  
1976, 37. Jus 1976, S. 88 ff.

Vorschlag zur Pönalisierung verbaler Gewalt. JZ 1976, S.  
141.

Abschren von Strafe (§ 60 StGB n. F.). Dogmatische und  
kriminalpolitische Probleme einer neueren Rechtsfigur.  
Festschr. f. Lange, 1976, S. 303 ff.

Strafvollzug — Resozialisierung oder Leerlauf? Eduard  
Naegeli (hrsgg.), Strafe und Verbrechen, 1976, S. 49 ff.

ナツナ (Wolfgang Naucke)

〔民一七・三・四〕一八一、<sup>二</sup>七六、<sup>三</sup>八九〕

編輯

Strafrecht. Eine Einführung, 1975.

Tendenzen in der Strafrechtsentwicklung, 1975.

編次

Rückwirkende Senkung der Promille-Grenze und Rückwir-  
kungsverbot (Art. 103 Abs. 2 GG). NJW 1968, S. 2321 ff.  
Rechtsstaat und menschliche Würde. ARSP vol. 56, 1970,  
S. 539 ff.

Paul Johann Anselm von Feuerbach. Zur 200. Wiederkehr  
seines Geburtstags am 14. November 1975. ZStrW Bd. 87,  
1975, S. 861 ff.

Der Kausalzusammenhang zwischen Täuschung und Irrtum  
beim Betrug. Zum Verhältnis zwischen Kriminalpolitik und  
Strafrechtsdogmatik. Lüderssen — Sack, Abweichendes Ver-  
halten, II 1, 1976, S. 332 ff.

ペトル (Peter Noll)

〔民一七・三・四〕一八一、<sup>二</sup>七六、<sup>三</sup>八九〕

編輯

Strafrecht I. Allgemeine Lehren, 1974.

H—H— (Dietrich Oehler)

〔刑一・三・四〕 一七六 罪三〇 罪三六〇〕

著書

Die Grenze des Verbots der Werbung für Zigaretten im Rundfunk, 1975.

論文

Les problèmes actuels d'extradition. RIDP vol. 39, 1968, p. 397 ff.

Der X. internationale Strafrechtskongreß in Rom vom 29. September bis 5. Oktober 1969. ZStrW Bd. 82, 1970, S. 571 ff.

Bericht über den vierten Kongreß der Vereinten Nationen über Verbrechenverhütung und Behandlung der Straffälliger, Kyoto/Japan, vom 17. bis 26. August 1970. ZStrW Bd. 83, 1971, S. 576 ff.

Großwort. Festschr. f. R. Lange, 1976, S. XV ff.

トシュエー (Harro Otto)

〔刑一・三・四〕 一七六 罪三〇 罪三六〇〕

著書

Grundkurs Strafrecht. Allgemeine Strafrechtslehre, 1976.

論文

Grenzen der Fahrlässigkeit im Strafrecht. — OLG Hamm

NJW 1973, 1422 JuS 1974, S. 702 ff.

Vorangegangenes Tun als Grundlage strafrechtlicher Haftung. NJW 1974, S. 528 ff.

Personales Unrecht, Schuld und Strafe. ZStrW Bd. 87, 1975, S. 539 ff.

Straflose Teilnahme? Festschr. f. Lange, 1976, S. 197 ff.

ペーター (Karl Peters)

〔刑一・三・四〕 一七六 罪三〇 罪三六〇〕

著書

Der neue Strafprozeß, 1975.

論文 (櫻長知子)

Freie Beweiswürdigung und Justizirrtum. Festschr. f. Karl Olivecrona, 1964, S. 532 ff.

Freiheit und Gebundenheit des Strafgefangenen. Zu dem auf S. 512 ff. abgedruckten Beschluß des Bundesverfassungsgerichts vom 14. 3. 1972. JR 1972, S. 489 ff.

Zur Entwicklung der deutschen kriminologischen Wissenschaft (Betrachtungen zu Hans Göppinger Kriminologie, 2. Aufl., 1973). JR 1974, S. 230 ff.

Seelsorge und Strafvollzug. JR 1975, S. 402 ff.

Eine Antwort auf Undeutsch : Die Verwertbarkeit unwillkürlicher Ausdrucksercheinungen bei der Aussagenwürdi-

gung: ZStrW Bd. 87, 1975, S. 663 ff.

Bleibende Grundlagen im Wandel des Jugendrechts. Festschr. f. Fr. Schaffstein, 1975, S. 381 ff.

Ergebnisse von Vorlagen nach Art. 100 Abs. 1 GG und einige Überlegungen dazu. ZZP Bd. 89, 1976, S. 1 ff.

Strafzumessung. Sieverts — Schneider. Hw. d. Krim. 2. Aufl., Erg. Bd. 1. Lief. 1977, S. 132 ff.

### クエンゼル (Stephan Quensel)

〔追三九二〕

論文 (増加)

Quensel — Hohmaier, Therapie ohne Diagnose? Zur Kritik vom Dorothea und Helga Peters an der Konzeption der sozialtherapeutischen Anstalt. KrimJ. 3. Jg., Nr. 1, 1971, S. 40 ff.

Kritische Kriminologie. Zur Auseinandersetzung mit einem marxistischen Ansatz. Kritische Kriminologie, 1974, S. 132 ff.

Chromosomenaberration und Zwangspsychopathische Kleptomanie: Zur Problematik eines biologischen Ansatzes. Kritische Bemerkungen zu den Aufsätzen von Klein-Vogler/Haberlandt und von H. Dietrich. MschrKrim. 59. Jg., 1976, S. 223 ff.

Wie wird man ein gewöhnlicher Verbrecher. Ein sozialpsychologisches Modell der delinquenten Entwicklung. Eduard Naegeli (Hrsgg.), Strafe und Verbrechen, 1976, S. 37 ff.

Einige sozialwissenschaftliche Probleme der juristischen Regelung sozialwissenschaftlicher Forschung. Eser-Schumann, Forschung im Konflikt mit Recht und Ethik, 1976, S. 200 ff.

### ロリンスキー (Klaus Rolinski)

〔法學研究四七卷三号、追三九四〕

一九三二年七月一日に、オストプロイセンのクランツに生れた。

ベルリン大学の手 (メルクマンの博士号を取得)、後に、次郎の助手となり、代案教授の助手として活躍した。一九七五年に、ベルリン大学教授となった。教授資格論文は、Die chronisch-rückfälligen Straftäter im neuen Maßregelrecht, Tätermerkmale als Einweisungsvoraussetzungen der sozialtherapeutischen Anstalt und Methoden zu ihrer Bestimmung (米谷正) である。

論文 (増加)

Zur Situation der unerwünschten Schwangerschaft. Baumann (Hrsgg.), Das Abtreibungsverbot des § 218 StGB, 2. Aufl., 1972, S. 248 ff.

Zur Hypothese unterschiedlicher Auswirkung von Verstär-

Kungsbedingungen bei Straffälligen und Nichtstraffälligen im Lernexperiment. Beitrag für den 30. Kongress der Deutschen Gesellschaft für Psychologie vom 19. - 24. Sept. 1970.

刑法草案各題（人びとがやるべきこと）の検討、Entwurf eines Gesetzes zum Schutz freier Meinungsbildung und Dokumentation des Arbeitskreises Pressefreiheit, 1970 の検討にのみ参加した。

ロクスン (Claus Roxin)

〔第一七・三・四、一七三、第一二〇、第一六五〕

譯著

Einführung in die Grundprobleme des Strafrechts, hrsgg.

v. Seiji Saito, 1976.

論文

Über den Notwehrerzeß. Festschr. f. Fr. Schaffstein, 1975, S. 105 ff.

Richard Lange siebzig Jahre. JZ 1976, S. 252.

Bemerkungen zum „Täter hinter dem Täter“. Festschr. f. Lange, 1976, S. 173 ff.

Recht und soziale Wirklichkeit im Strafverfahren. Göppinger - Kaiser, op. cit. Krim. Geg. Fr. Heft 12, 1976, S. 9 ff.

ルトルナー (Hans-Joachim Rudolph)

〔第一七・三・四、一七三、第一二〇、第一六五〕

共著

Systematischer Kommentar StGB. Allg. Teil, Bd. 1, 1975. Besonderer Teil, 1976.

論文

Zur Abgrenzung zwischen Vorbereitung und Versuch. - OLG Celle, NJW 1972, 1823. Jus 1973, S. 20 ff.

Grenzen der Überwachung des Fernmeldeverkehrs nach den § 100 a, b StPO. Festschr. f. Fr. Schaffstein, 1975, S. 433 ff. Strafprozeß im Umbruch. ZRP 9. Jg., 1976, S. 165 ff.

※ リーピング (Hinrich Rüping)

一九四二年二月九日に、ボーレンホルトで生まれた。ボン大学のヴァルンホル教授に提出した論文 Die Naturrechtslehre des Christian Thomasius und ihre Fortbildung in der Thomasius-Schule, 1968により学位を取得し、後に、同門のシマイン、教授に師事し、ゲッティンゲン大学に法学部助手を勤めつけたが、同教授に提出した論文 Der Grundsatz des rechtlichen Gehörs und seine Bedeutung im Strafverfahren, 1976により、一九七四年に、ゲッティンゲン大学私講師となり、一九七五年に、ボン大学教授に就任した。

著書

Theorie und Praxis des Strafverfahrens, 1977.

論文

Gottlieb Gerhard Titius und die Naturrechtslehre in Deutschland um die Wende vom 17. und 18. Jahrhundert. Savigny-ZSchr. Germ. Bd. 87, 1970, S. 314 ff.

Geldstrafe und Buße. Zur Entwicklung der öffentlichen Strafe. ZStrW Bd. 85, 1973, S. 672 ff.

Zur Mitwirkungspflicht des Beschuldigten und Angeklagten. JR 1974, S. 135 ff.

Rechtliches Gehör und Prozeßökonomie. Information über Steuer und Wirtschaft. 1974, S. 133 ff.

Teilnahme durch Unterlassen. Revue de droit international 1974, p. 126 ff.

Der Schutz der Gerichtsverhandlung — „Ungedühr“ oder „betriebliche Ordnungsgewalt“? ZJP Bd. 88, 1975, S. 212 ff.

Die Gnade im Rechtsstaat. Festschr. f. Fr. Schaffstein, 1975, S. 31 ff.

Funktionen der Laienrichter im Strafverfahren. JR 1976, S. 269 ff.

Sterbehilfe und „gelenkte Sterblichkeit“. Deutsche Med. Wochenschr. Bd. 101, 1976, S. 1332 ff.

Rüping - Kamp. Der praktische Fall - Strafrecht. Jugendliche im Bus. Jus 1976, S. 660 ff.

※ サック (Fritz Sack)

一九三一年二月二十六日に、ボンメルンのノイマルクに生まれた。一九五一年から五四年まで、シクリスヴァーゴ・ホルシタインの州税務局に勤め、一九五四年から七〇年まで、キール大学、オハイオ州立大学、カリフォルニア大学、ケルン大学において経済学と社会学を学び、その間、一九六三年に論文 *Integration und Anpassung des Handwerks in der industriellen Gesellschaft*, 1966に学位を取得した。一九五八年から六三年まで、ケルン大学のルネ・ケーニッヒ教授の主宰する社会学研究所の助手をつとめていたが、一九七〇年二月に、教授資格を取得した。論文は、*Strukturen und Prozesse in einem Delinquenzviertel Kölns. Ein Beitrag zur Kriminalsoziologie*, 1974である。一九七〇年にノーヤンズン大学教授となり、一九七四年には、ハンノーバー工科大学法学部教授になった。今田正樹の訳。

著書 (共著編)

König - Sack, *Kriminalsoziologie*, 1968.

Sack - Kjolseth, *Zur Soziologie der Sprache*, 1971.

Sack - Albrecht - Daheim, *Soziologie, Sprache - Bezug zur Praxis*—Verhältnis zu anderen Wissenschaften. René König zum 65. Geburtstag, 1973.

Kaiser - Schellhoss - Sack, *Kleines Kriminologisches Wörterbuch*, 1974.

Lüderssen - Sack, *Seminar : Abweichendes Verhalten I ;*



Die selektiven Normen der Gesellschaft, 1974.

do. : II 1 ; Die gesellschaftliche Reaktion auf Kriminalität, 1975.

備考

Das Experiment als Verhaltensprinzip im Leben avantgardistischer Gruppen. Theater und Zeit, 8. Jg., 1961, S. 145 ff.

Mißverständnis um die Soziologie des Theaters. Theater und Zeit, 9. Jg., 1961, S. 241 ff.

Zum Stand der Kriminologie—Dargestellt an zwei Publikationen. KZfSS 18. Jg., 1966, S. 355 ff.

Abweichendes Verhalten. W. Berndsdorf (Hrsgg.), Handwörterbuch der Soziologie, 2. Aufl., 1968, S. 2 ff.

Die West-Ost-Wanderung der Kriminalität. H. Schäfer, Kriminalistische Akzente, Bd. 4 der Grundlagen der Kriminalstatistik, 1968, S. 245 ff.

Neue Perspektiven in der Kriminologie. König-Sack, op.cit., S. 430 ff.

Die fortschreitende Auflösung der Familie aus soziologischer Sicht. Bericht über die Arbeitstagung der Bundeskonferenz für Erziehungsberatung e. V. vom 8. bis 10. Mai 1968 in Dusseldorf.

Die Familie in der modernen Gesellschaft. Klausenhof-Berträge zur ausländischen Jugend- und Erwachsenenbildung,

H. 2, 1969.

Sack-Albrecht, Die Polizei als gesellschaftliche Kontrollinstanz der Kriminalität. KrimJ Nr. 1, 1969, S. 24 ff.

Probleme der Kriminalsoziologie. König (Hrsgg.), Hb. d. empirischen Sozialforschung, 2. Bd., 1969, S. 961 ff.

Soziologische Aspekte von Haft- und Verfolgungsschäden. H. J. Herberg (Hrsgg.), Spätschäden nach Estrembelastungen, 1971, S. 221 ff.

Neuere Ergebnisse der kriminologischen Forschung aus den USA. Krim. Geg. Fr. Heft 9, 1971, S. 44 ff.

Die verhinderte Öffentlichkeit und ihre Funktionen. Hans Lauter u. Joachim-Ernst Meyer (Hrsgg.), Der psychisch

Kranke und die Gesellschaft, 1971, S. 55 ff.

Selektion und Kriminalität. Krit. J. Jg. 4, 1974, S. 384 ff.

Die Idee der Subkultur : Eine Beziehung zwischen Anthropologie und Soziologie. KZfSS Bd. 23, 1971, S. 261 ff.

Abweichendes Verhalten. Die moderne Gesellschaft, 1972, S. 315 ff.

Definition von Kriminalität als politisches Handeln. KrimJ, 1972, S. 3 ff.

Abweichendes Verhalten aus soziologischer Sicht. — Folgen für die Sozialarbeit. H.-U. Otto - S. Schneider (Hrsgg.), Gesellschaftliche Perspektiven der Sozialarbeit, I/II, 1973.

Stadtgeschichte und Kriminalsoziologie. Eine historisch-soziologische Analyse sozialen Verhaltens. Sonderheft 16 KZfSS, 1972 (auch: Lüderssen-Sack, op. cit., I, 1974, S. 37 ff., 291 ff.)

Jugend und Gewalt. F. Neidhardt (Hrsg.), Aggression in unserer Gesellschaft, 1973, S. 39 ff.

Einige Fragen und Probleme der Rechtsanwendung—aus soziologischer Sicht. Albrecht-Daheim-Sack (Hrsg.), Soziologie, Sprache, op. cit., 1973, S. 400 ff.

Selektion und Klassenjustiz. Vorgänge I, 1973, S. 55 ff.  
 Schicht u. Klasse, Band, Gangs, Dunkelfeld, Familie, Kulturkonflikte, Kultur, Subkultur, Makro- u. Mikrobereich, Minderheiten u. Vorrurteile, Recht u. soziale Kontrolle, Sachverständiger, Selektion, Selektionsmechanismen. Kaiser-Schellhoss-Sack, op. cit., 1974.

Theoretische Vorbemerkungen und organisatorische Bedingungen zum interdisziplinären Forschungsprojekt im Landes-krankenhaus Düsseldorf - Grafenberg. KZfSS 1973, S. 231 ff.  
 Kriminalität als gesellschaftliche Legitimierungsproblema-tik — Kriminologie als Legitimationswissenschaft. Recht u. Politik, 1975, S. 19 ff.

Die Chancen der Kooperation zwischen Strafrechtswissen-schaft und Kriminologie — Probleme und offene Fragen.

Lüderssen — Sack, op. cit., II 1, S. 346 ff.  
 Sack—E. Weingarten, Ethnomethodologie. Die methodische Konstruktion der Realität. Weingarten-Sack-Schenkenin(Hrsg.), Ethnomethodologie. Beiträge zu einer Soziologie des Alltags-handelns. 1976, S. 7 ff.

サマソン (Erich Samson)  
 [原書 1971, 原書九六]  
 譯書 (共著)

Strafrecht I, 1974.  
 Strafrecht II, 1976.  
 Systematischer Kommentar StGB. Bd. 1, Allg. Teil, 1975,  
 Bd. 2, Besonderer Teil, 1976.

サステッド (Werner Sarstedt)  
 [原書 1971, 原書九六]  
 譯書

Paulheinz Baldus f. JR 1976, S. 287.  
 サックス (Walter Sax)  
 [原書 1971, 原書九六]  
 譯書

„Tatbestand“ und Rechtsgutsverletzung. Überlegungen zur

Neubestimmung von Gehalt und Funktion des „gesetzlichen Tatbestandes“ und des „Unrechts tatbestandes“ I, II, JZ 1976, S. 9 ff., 80 ff., 429 ff.

シャフトマン (Friedrich Schaffstein)

〔刑一七・三・四〕一六八『道三二八三』道三九六〕

著書

Jugendstrafrecht. Eine systematische Darstellung. 5. Aufl., 1975.

論文

Jugendkriminologische Bemerkungen zur Verurteilungsstatistik 1972. MschrKrim. 57, Jg., 1974, S. 325 ff.

Die strafrechtliche Verantwortlichkeit Heranwachsender nach Herabsetzung des Volljährigkeitsalters. MschrKrim. 59, Jg., 1976, S. 92 ff.

Vom crimen vis zur Nötigung. Eine Studie zur Tatbestandsbildung im Gemeinen Strafrecht. Festschr. f. Lange, 1976, S. 983 ff.

※ シンク (Georg Schilling)

一九三六年四月一日に、オーブーラウジツンのワイスマッサーで生まれた。ボン大学のアルミン・カウマンに提出した論文 Der strafrechtliche Schutz des Augenscheinsbeweises, 1965 以降

筆記を取得し、後、助手として勤務し、一九七五年に私講師となり、教授資格請求論文は、Der Verbrechenstypus des Mittäters und des mittelbaren Täters, 1975 以降。一九七六年にボン大学教授となり、

著書

Fälschung technischer Aufzeichnungen, 1970.

Reform der Urkundenverbrechen, 1971.

論文

Zur Anwendung des § 298 StGB bei der Aufzeichnung von Telefongesprächen. NJW 1972, S. 854.

Strafprozessuales Zeugnisverweigerungsrecht für Sozialarbeiter, Sozialpädagogen und Psychologen? JZ 1976, S. 617 ff.

アルミッド (Werner Schmid)

〔刑一七・三・四〕一六八『道三二八三』道三九六〕

論文

Über den Aktenverlust im Strafprozess. Festschr. f. Lange, 1976, S. 781 ff.

エバーハルト・シュー (Eberhard Schmidhäuser)

〔刑一七・三・四〕一六五『道三二八四』道三九七〕

論文

Unrechtsbewußtsein und Schuldgrundsatz. NJW 1975, S.

1807 ff.

Fahrlässige Straftat ohne Sorgfaltspflichtverletzung. Festschr. f. Fr. Schaffstein, 1975, S. 129 ff.

エベルハルト・シロムニル (Eberhard Schmidt)

〔刑一七・三・四、一六五、<sup>1)</sup> 追二八四、<sup>2)</sup> 追三九七〕

論文 (追加)

Straftaten und Ordnungswidrigkeiten. Erinnerungen an die Arbeiten der Wirtschaftskommission (1947-1949). Festschr. f. Adolf Arndt, 1969, S. 415 ff.

ゲルハルト・シロムニル (Gerhard Schmidt)

〔追二八五〕

論文

Großverfahren und Strafprozeßrecht. JR 1974, S. 320 ff.

ルドルフ・シロムニル (Rudolf Schmitt)

〔<sup>1)</sup> 刑一四・三・四、<sup>2)</sup> 一六一、<sup>3)</sup> 刑二八八、<sup>4)</sup> 刑三六八〕

論文

Nochmals: Was wird aus unseren Jurastudenten? JZ 1975,

S. 730 f.

Von der Aufgabe, Gesetze zu machen. Ein Beitrag zur Geschichte der Reform unseres Abtreibungsstrafrechts.

Zf Familienrecht. 23. Jg., 1976, S. 595 f.

Wie weit reicht § 30 des Ordnungswidrigkeitengesetzes? Festschr. f. Lange, 1976, S. 877 ff.

ハンス・ヤコブ (Hans Joachim Schneider)

〔<sup>1)</sup> 追二八七、<sup>2)</sup> 追三九九〕

著書

Kriminologie Jugendstrafrecht Strafvollzug, 1976.

論文

Schneider, Jubelius et. al., Darstellung der Kriminalität im Fernsehen und ihre Beziehung zur Einstellung der Rezipienten. KrimJ. 6. Jg., 1974, S. 125 ff.

In memoriam Hermann Mannheim. ZStrW Bd. 86, 1974, S. 1039 ff.

Kriminologie(Grundlagen)—Ergänzung. Sieverts-Schneider, Hw. d. Krim. 2. Aufl., 2. Bd. 1977, S. 515 ff.

Miyazawa-Schneider, Vergleichende Kriminologie: Japan. Sieverts-Schneider, Hw. d. Krim. 2. Aufl., Erg. Bd., 1. Lief., 1977, S. 1 ff.

ハインツ (Heinz Schöck)

〔<sup>1)</sup> 追三九九〕

論文

Grundlage und Wirkungen der Strafe. Zum Realitätsgehalt des § 46 Abs. 1 StGB. Festschr. f. Fr. Schaffstein, 1975, S. 255 ff.

Ist Kriminalität normal? Probleme und Ergebnisse der Dunkelfeldforschung. Göppinger-Kaiser, op. cit., Krim. Geg. Fr. Heft 12, 1976, S. 211 ff.

※ ショーンボーン (Christian Schönborn)

一九四〇年九月一五日に、ベルリンで生まれた。ノルマンニア大学のヴァーレンム・ツラホス博士の論文 Die berichtigende Auslegung des § 246 StGB. Diss. Frankfurt, 1968 に、その著述を取得了、彼の助手を勤めつたが、一九七五年、同大学から講師となつた。教授資格請求論文が、まだ、公刊を要する。

論文

Verwertungsverbot bei nichtärztlicher Blutentnahme? MDR 1971, S. 713 ff.

Alternativität der Handlungsvorgänge als Kriterium des strafprozessualen Tatbegriffs. MDR 1974, S. 529 ff.

Zeugnisverweigerungsrecht bei mehreren Mitbeschuldigten und Rechtskreisstheorie. NJW 1974. S. 535 ff.

Zum Problem der materiellrechtlichen und prozessualen Tateinheit durch „Verklammerung“. NJW 1974, S. 734 f.

Das Problem der Rollenvertauschung und des Zeugnisverweigerungsrechts bei mehreren Mitbeschuldigten in vergleich-

ender Betrachtung. ZStrW Bd. 86, 1974, S. 921 ff.

Die strafprozessuale Beweiswertungsproblematik aus revisionsrechtlicher Sicht. GA 1975, S. 33 ff.

Die regulative Funktion des Schuldprinzips bei der Strafzumessung. GA 1975, S. 272 ff.

Die Behandlung der Verfahrenshindernisse im strafprozessualen Verfahrensengang. MDR 1975, S. 6 ff.

Verfassungsrechtliche Aspekte des strafprozessualen Wiederaufnahmeverfahrens. MDR 1975, S. 441 ff.

Kombiniertes Teilnahme- und Einheitsstätersystem für das Strafrecht. ZStrW Bd. 87, 1975, S. 902 ff.

Schuldprinzip und generalpräventiver Aspekt. ZStrW Bd. 88, 1976, S. 349 ff.

ハントヴェー (Hans-Ludwig Schreiber)

【要目 100】

総論 (共著)

Gesetz und Richter : Zur geschichtlichen Entwicklung des Satzes „nullum crimen, nulla poena sine lege“, 1975. (総論稿 兼論文論文)

Systematischer Kommentar StGB. Bd. 1, Allg. Teil, 1975; Bd. 2, Besonderer Teil, 1976.

論文

Besondere Umstände in der Tat und in der Persönlichkeit des Verurteilten. Festschr. f. Fr. Schaffstein, 1975, S. 275 ff.  
Euthanasie. Beiträge zur Gerichtlichen Medizin, 1975, S. 275 ff.

Verfassungsrecht und Verfahrenswirklichkeit. ZStrW Bd. 88, 1976, S. 117 ff.

Abschied vom Begriff des ärztlichen Kunstfehlers? Der medizinische Sachverständige, 72. Jg., 1976, Heft 4, S. 71 ff.  
Das Bild des Juristen in den Diskussionen um die Reform der Juristenausbildung.

フーナー (Friedrich Christian Schroeder)

[限一七・三・四 一六〇 頁三六二' 頁三〇一]

脚註 (共脚)

Schroeder-Kaufmann, Sport und Recht, 1972.

Texte zur Theorie des politischen Strafrechts, 1974.

Das neue Sexualstrafrecht, 1975.

論文 (原田和雄)

Schuld als Entwicklung—Zur neuerenSchulddiskussion in der DDR. Jb. f. OR. 1973, S. 9 ff.  
Schlußwort. JZ 1976, S. 238 f.

Reinhart Mauracht. JZ 1976, S. 534.

Die Entwicklung der Sexualdelikte nach dem 4. StrRG.

Zugleich zur Theorie der Kriminalstatistik. MschrKrim. 59. Jg., 1976, S. 108 ff.

Die Kriminalisierung der Fluchthilfe ist unzulässig. ZRP 9. Jg., 1976, S. 32 ff.

Das „Erzieherprivileg“ im Strafrecht. Festschr. f. Lange, 1976, S. 391 ff.

フーナー (Horst Schröder)

[限一七・三・四 一五九' 頁三九三' 頁三〇一]

論文 (原田)

Notwehr bei schuldhaften Vorverhalten—BGH NJW 1972, 1821. Jus 1973, S. 157 ff.

フーナー (Horst Schüler-Springorum)

[限一七・三・四 一五六' 頁三九四' 頁三〇一]

一七〇頁中央新報「『キーン』大学教授の告白」

脚註

Schüler-Springorum—Krokowski, Jugendkriminalität und Resozialisierung, 1975.

論文 (原田和雄)

Die Jugendkriminalrechtspflege im Lichte der kriminologischen Forschung. Die Jugendkriminalrechtspflege im Lichte der kriminologischen Forschung—Erfahrungen, Erkenntnisse,

Konsequenzen, 1969, S. 21 ff.

A Critical Comparison of the British Detention Centres and the German „Jugendarrest“ System. *IJCP* 1975, Bd. 3, p. 201 ff.

Jugendstrafrecht im Umbruch. Jung, Fälle zum Wahlfach Kriminologie, Jugendstrafrecht, Strafvollzug, 1975, S. 162 ff.  
Zum Strafrecht für junge Erwachsene. *Festschr. f. Fr. Schafstein*, 1975, S. 395 ff.

シローネマン (Bernd Schünemann)  
ボン大学の研究参与兼教授となりしたが、一九七五年に、マンハイム大学に教授に就任した。  
論文

Moderne Tendenzen in der Dogmatik der Fahrlässigkeit- und Gefährdungsdelikte. *JA* 1975, S. 113 ff., 131 ff., 149 ff., 167 ff., 185 ff., 203 ff.

Neue Horizonte der Fahrlässigkeitdogmatik? Zur Stellung der individuellen Sorgfaltswidrigkeit und des Handlungsfolgen im Verbrechensaufbau. *Festschr. f. Fr. Schafstein*, 1975, S. 159 ff.

※ シロウ・ハント (Hans-Dieter Schwind)  
一九三六年五月三十一日生まれ。東京に生まれた。その父親は、一九三

西ドイツ刑法学の現状

三年から三十九年にかけて、大森にあるドイツ学園長であったマルティン・シュウマンに教授である。

マンハイム大学のシーマンに教授に提出した論文「Umfang und Träger der Wehrgerichtsbarkeit—Historische, rechtsvergleichende und rechtsstatistische Untersuchungen, 1966」を学位取得した。その後「シターラー＝シュンリッヒ」に師事し「メタヤン」に移り「ヤン」を提出した論文「Oligoprenie und Delinquenz—Untersuchungen zur Kriminologie des Schwachsinn und zur Frage seiner Berücksichtigung im Strafprozeß (未完)」により、教授資格を取得し、一九七四年夏学期に、マンハイム大学に教授に就任した。

著書

The Military Judicial Organisations of the CIORNATO-States, 1964.

Kurze Geschichte der deutschen Kriegsgerichte, 1966.

Schwind - Jany - Wohlgemuth, Eine Meinungsfrage in Bochum zu Problemen des Strafvollzuges, 1975.

Schwind - Hassenpflug - Nawratil - Kollenberg, Strafrecht leicht gemacht. Eine Einführung zum Allgemeinen und Besonderen Teil des Strafgesetzbuches mit praktischen Hinweisen für Klausur, Aufbau und Studium, 1975.

Schwind et al., Dunkelfeldforschung in Göttingen 1973/74, 1975.

Schwind-Blau, Strafvollzug in der Praxis. Eine Einführung in die Probleme und Realitäten des Strafvollzuges und der Entlassenshilfe, 1976.

續片

Die Regelung der Wehrgerichtsbarkeit in der Bundesrepublik Deutschland. ZSchr. Wehrkunde, Sept. Heft 1966.

Rechtsvergleichende Untersuchungen zur Wehrgerichtsbarkeit, ebenda Oktober Heft.

Reformvorschläge zur deutschen Wehrgerichtsbarkeit, op. cit., 1967, Januar Heft.

Die Militärgerichtsbarkeit im Zweiten Weltkrieg. Neue ZSchr. f. Wehrrecht 1968, Heft 2, S. 68 ff.

Über die Kriegsggerichtsbarkeit vor, in und nach dem Ersten Weltkrieg. ZSchr. f. Wehrrecht 1968, S. 167 ff.

Grundfälle der „Kettenteilnahme“. MDR 1969, S. 13 ff.

Der unbedeutende Wert als Grenze der Verbrauchsmittelentwendung. Der deutsche Rechtspfleger 1970, S. 126 ff.

„Ungebührliches“ Verhalten vor Gericht und Ordnungsstrafe. JR 1973, S. 133 ff.

Schwind - Eger, Untersuchungen zur Dunkelziffer. Nicht-entdeckte Straftaten von Gottinger Jura-Studenten. Mschr Krim. 56. Jg., 1973, S. 151 ff.

Zum Stand des „gesicherten Wissens“ in der kriminologi-

schen Forschung. JR 1974, S. 12 ff.

Zwischenbericht zur Dunkelfeldforschung in Göttingen. Krim. 28. Jg., 1974, S. 241 ff.

Schwind - Jany - Simon - Wohlgemuth, Kriminalgeographie, Kriminalitätsatlas Bochum : Beschreibung eines geplanten Kriminalgeographischen Forschungsprojekts. Krim. 29. Jg., 1975, S. 241 ff.

Kriminalgeographie und Prävention, in : Polizei und Prävention. Vortragsreihe des BKA, Bd. 22, 1975.

Kriminalität und Schwachsinn. Hw. d. Krim. Bd. 3, 1975, S. 445 ff.

Schwind - Jany - Wohlgemuth, Eine Meinungsumfrage in Bochum, interessante Einstellungen zur Gefangenearbeit. ZfStV 25. Jg., 1976, S. 103 ff.

Kurzer Bericht über Ziele, Methoden und Resultate der Dunkelfeldforschung in Göttingen 1973/74. Göppinger-Kaiser, op. cit., Krim. Geg. Fr. H. 12, 1976, S. 229 ff.

Kurzer Überblick über die Geschichte des Strafvollzuges. Schwind-Blau, op. cit., S. 1 ff.

Über die Einstellung der Bevölkerung zu Problemen des Strafvollzuges, ebenda, S. 429 ff.



シムンツァ (Erich Schwinge)

〔刑一七・三・四' 一五四' 追Ⅱ九六' 追Ⅲ一〇三〕

論文

Richter und Strafverteidiger in den USA. DRIZ 54. Jg.,

1976, S. 300 ff.

シムンツェル (Günter Spedel)

〔刑一七・三・四' 一四九' 追Ⅱ九七' 追Ⅲ一〇三〕

論文

Fahrlässige Teilnahme an Selbst- und Fremdtötung. Jus

1974, S. 749 ff.

Der „Täter hinter dem Täter“ — eine notwendige Rechts-

figur? Zur Lehre von der mittelbaren Täterschaft. Festschr.

f. Lange, 1976, S. 147 ff.

シトラーテンヴェルト (Günter Stratenwerth)

〔刑一七・三・四' 一四七' 追Ⅱ九八' 追Ⅲ一〇四〕

著書

Strafrecht. Allg. T. I. 2. Aufl., 1977.

論文

Zur Relevanz des Erfolgsunwerts im Strafrecht. Festschr.

f. Fr. Schaffstein, 1975, S. 177 ff.

Die Stufen des verbrechensaufbaus. Lüderssen - Sack, Ab-

weichendes Verhalten, II. 1, 1976, S. 251 ff.

シトラー (Walter Stree)

〔刑一七・三・四' 一四六' 追Ⅱ九八' 追Ⅲ一〇四〕

共著

Roxin—Stree — Zipf—Jung, Einführung in das neue

Strafrecht, 2. Aufl., 1975.

Schönke-Schröder, StGB, 18. Aufl., 1976.

論文

Begünstigung, Strafvereitelung und Hehlerei. Betrachtung-

en zu der Neuregelung. Jus 1976, S. 137 ff.

Strafrechtsschutz im Vorfeld von Gewalttaten. NJW 1976,

S. 1177 ff.

※ トス (Peter Thoss)

一九三七年二月十五日に、ドレスデンで生まれた。一九六八年に  
公刊された論文 Das subjektive Recht in der gliedschaftlichen  
Bindung. Zum Verhältnis von Nationalsozialismus und Privat-  
recht, 1968 をランツェルト大学のコンンス・ベーターに提出し、学  
位を取得し、その後、キーゼン大学のヘルバート・イェーガー教授  
の助手を勤めていたが、ブレーメン大学の招聘を受けて、同大学の  
教授となった。教授資格請求論文は書いていない。

著書 (共著)

Herbert Jäger-Peter Thoss, Kleingruppenarbeit im Strafrecht — Bericht über den Kursus Strafrecht Allgemeiner Teil im Sommersemester 1971 in Gießen. Hochschuldidaktische Materialien Nr. 30, 1971.

Peter Thoss — Rüdiger Lautmann — Johannes Feest, Einstufige Juristenausbildung im Bereich strafrechtlicher Sozialkontrolle. Bremer Erfahrungen und Perspektiven seit 1972. Hochschuldidaktische Materialien Nr. 56, 1976.

論文

Zum Verhältnis von Kern und Grenzen der Reform besonders der Vermögensdelikte. Carl Nedelmann (Hrsg.), Kritik der Strafrechtsreform, 1968, S. 66 ff.

Jäger — Thoss, Bericht über den Kursus Strafrecht Allgemeiner Teil im Sommersemester 1970 in Gießen. studentische politik 1970 Heft 5/6 S. 61 ff.

Kriminalpolitische Juristenausbildung. Alfred Rincken u. a. (Hrsg.), Der neue Jurist, Ausbildungsreform in Bremen als Planungs- und Lernprozeß, 1973, S. 10 ff.

Wirtschaftskriminalität und Juristenausbildung. ZRP 7, Jg., 1974, S. 238 ff.

Lautmann — Thoss, Gewalt in der Gesellschaft und strafbare Gewalt. KrimJ 1976, S. 120 ff.

ホーヘンハ (Klaus Tiedemann)

〔限一七・三・四一四五〕 第二九六九、第二一〇四〕  
 雑誌

Wirtschaftsstrafrecht und Wirtschaftskriminalität. Allg. u.

Bes. Teil, 1976.

Wettbewerb und Strafrecht, 1976.

論文

Der Versuch der Zweckentfremdung im Steuerstrafrecht. JR 1973, S. 412 ff.

Internationale Zusammenarbeit auf dem Gebiet des Wirtschaftsstrafrechts. JR 1974, S. 93 f.

La criminalité socio-économique : Aspects internationaux et de droit comparé. RSCDPC 1974, P. 749 ff.

Internationale und vergleichende Aspekte der Wirtschaftskriminalität. Aktuelle Beiträge zur Wirtschaftskriminalität, 1974, S. 109 ff.

Der Subventionsbetrug. ZStrW Bd. 86, 1974, S. 897 ff.

Der Wechsel von Strafnormen und die Rechtsprechung des Bundesgerichtshofes. JZ 1975, S. 692 ff.

Objektive Strafbarkeitsbedingungen und die Reform des deutschen Konkursstrafrechts. ZRP 8, Jg., 1975, S. 129 ff.

Strafstatbestand und Normambilanz am Beispiel der Geschäftsfälschung. Festschr. f. Fr. Schaffstein, 1975,

S. 197 ff.

Der Entwurf eines Ersten Gesetzes zur Bekämpfung der Wirtschaftskriminalität. ZStrW Bd. 87, 1975, S. 253 ff.

Erscheinungsformen der Wirtschaftskriminalität und Möglichkeiten ihrer strafrechtlichen Bekämpfung. ZStrW Bd. 88, 1976, S. 231 ff.

Ziele und Probleme wirtschaftskriminologischer Forschung. Festschr. f. Lange, 1976, S. 541 ff.

※ オットー・トリッテラー (Otto Triffterer)

一九三一年二月一日に、オーブン・ハウゼンのオヌターフェルトに生まれた。

フライブルクのマックスプランク国際刑法・外国刑法研究所の助手を勤めていたが、一九七五年に、ギーゼン大学教授となった。現在、副学長に就任している。

学術論文は、『ノーマンスタ』に掲載した Dogmatische Untersuchungen zur Entwicklung des materiellen Völkerstrafrechts seit Nürnberg, 1966, 『イッパ』

著書

Jurisdiction over States for the Crimes of State, in: Treaty on International Criminal Law, vol. II, Jurisdiction and Cooperation compiled and edited by M. C. Bassouni and V. P. Nanda, 1973.

Menschenrechte in den Streitkräften. Landesberichte der Bundesrepublik Deutschland für den VII. Kongreß der Internationalen Gesellschaft für Wehrrecht und Kriegsvölkerrecht in San Remo, September 1976.

Menschenrechte in den Streitkräften - Das Recht auf Meinungsfreiheit für den VII. Kongreß der Internationalen Gesellschaft für Wehrrecht und Kriegsvölkerrecht in San Remo September 1976.

論文

Menschenrechte. Entwicklungspolitik. Handbuch und Lexikon, 1966, Sp. 1375 ff.

Rechtspflege, ebenda, Sp. 1494 ff.

Strafrecht, ebenda, Sp. 1575 ff.

Abgrenzungsprobleme beim Betrug durch Schweigen. — OLG Hamburg, NJW 1969, 325. Jus 1971, S. 181 ff.

Zur Behandlung „Lebenslänglicher“ in der BRD. Untersuchungen über ihre vorzeitige Entlassung. ZRP Jg. 3, 1970, S. 13 ff., 38 ff.

Resozialisierung. Staatslexikon. Ergänzungsband III, 1970, Sp. 85 ff.

Erscheinungsformen und Methoden zur Bekämpfung der Wirtschaftskriminalität. JZ 1971, S. 68 ff.

Zum Schulbegriff im geltenden und kommenden Strafrecht.

RuG 1971, S. 9 ff.

Neuartige Freiburger „Einführung in die strafrechtliche Praxis“. ZRP 1971, S. 46.

Die Bemühungen der Vereinten Nationen zur Regelung der Untersuchungshaft — Möglichkeiten und Grenzen völkerrechtlicher Durchsetzung von Mindestgarantien. Jescheck — Krümpelmann, Die Untersuchungshaft im deutschen, ausländischen und internationalen Recht, 1971, S. 885 ff.

Analyse des kontinental-europäischen Strafverfahrens. RuG 1974, S. 165 ff.

Trifferrer-Rehbinder, Der Einfluß des wissenschaftlichen und technischen Fortschritts auf die Entwicklung des Rechts. ZSchr. f. vergleichende Rechtswissenschaft einschließlich der ethnologischen Rechtsforschung 1974, S. 89 ff.

Trifferrer-Bietz, Strafaussetzung für „Lebenslängliche“? Zum Gesetzentwurf für eine Aussetzung des Strafrechts bei lebenslanger Freiheitsstrafe nach 12 bzw. 15 Jahren. ZRP 7. Jg., 1974, S. 141 ff.

Vermögensdelikte im Bundesligaskandal. NJW 1975, S. 612 ff.

Vermögensdelikte im Bundesligaskandal. Koll. Str. Vgl., 1975, S. 65 ff.

Laudatio auf „Amnesty International“, vertreten durch

Peter Benenson (anlässlich der Verleihung der Beccaria-Medaille 1974). Kriminologische Aktualität K. 1975, S. 9 ff.

Die lebenslange Freiheitsstrafe — ein Fall für das BVerfG. ZRP 9. Jg., 1976, S. 91 ff.

Das „Folterverbot im nationalen und internationalen Recht“ — Anspruch und Wirklichkeit. Folter - Stellungnahme, Analyse, Vorschläge zur Abschaffung, 1976, S. 125 ff.

Zur Einschränkung der Menschenrechte und zur Anwendbarkeit strafprozessualer Verfahrensgarantien bei freiheitsentziehenden Disziplinarmaßnahmen in „besonderen Gewaltverhältnissen“ I. II. Europäische Grundrechte, 1976, S. 363 ff., 1977.

Aufgaben, Systematik und Bedeutung des Strafgesetzbuches und des Gesetzes über die Ordnungswidrigkeiten. Einführung in : Das Deutsche Bundesrecht. Textausgabe Strafrecht und OWiG, 3. Aufl., 1977, S. IX ff.

Aufgaben, Systematik und Bedeutung der Strafprozessordnung, des Jugendgerichtsgesetzes und der Richtlinien für das Strafverfahren und das Bußgeldverfahren. Einführung in : Das Deutsche Bundesrecht. Textausgabe Strafprozessordnung und Jugendgerichtsgesetz, 2. Aufl., 1977, S. IX ff.

※ ウルゼンハイマー (Klaus Ulsenheimer)

ボン大学のウルゼンハイマーに提出した論文 Das Verhältnis zwischen Pflichtwidrigkeit und Erfolg bei den Fahrlässigkeitsdelikten, 1965 年 4 月 学位を取得し、後、助手を勤め、一九七五年頃、教授資格請求論文を提出し、ボン大学私講師となった。論文は Grundrissen des Rücktritts vom Versuch in Theorie und Praxis, 1976 年 4 月号。同誌のケルンゲン博士ことこのウゼンハイマーが、ケルンゲン博士を「同大第 9 回 時間講師 4 月号」。

論文

Zur Problematik des Versuchs erfolgsqualifizierter Delikte.

GA 1966, S. 257 ff.

Das Personensorgerecht der Eltern im Widerstreit mit dem Gewissen und dem Strafgesetzbuch. FamRZ 1968, S. 568 ff.

Erfolgsrelevante und erfolgsneutrale Pflichtverletzungen im Rahmen der Fahrlässigkeit. JZ 1969, S. 364 ff.

Strafbarkeit des Garanten bei Nichtvornahme der einzig möglichen, aber riskanten Rettungshandlung BGH bei Dalinger MDR 1971, 361. Jus 1972, S. 252 ff.

Wartepflicht auf die Polizei nach Verkehrsunfällen — OLG Oldenburg NJW 1968, 2019. Jus 1971, S. 24 ff.

Zunutbarkeit normgemäßen Verhaltens bei Gefahr eigener Strafverfolgung. GA 1972, S. 1. ff.

Zur Regelung des Verteidigerausschlusses in §§ 138 a~d,

146 n. F. StPO. GA 1975, S. 103 ff.

Zur Strafbarkeit des Mißbrauchs von Insider-Informationen. NJW 1975, S. 1999 ff.

ヴォーグラー (Theo Vogler)

〔租一七・三・四〕 一四三〇 租二八 一〇〇〇 租三三 一〇五〕

論文

Hochstrichterliche Rechtsprechung zum Auslieferungsrecht. GA 1975, S. 225 ff., auch in: Koll. Str. Vgl., 1975, S. 17 ff.

Vogler-Kadel, Der praktische Fall. StR. Eine verhängnisvolle Bitte. Jus 1976, S. 245 ff.

Zur Bedeutung des § 28 StGB für die Teilnahme am unechten Unterlassungsdelikt. Festschr. f. Lange, 1976, S. 265 ff.

ヘンリッ・ワグナー (Heinz Wagner)

〔租三三 一〇五〕

率種

Recht als Widerspiegelung und Handlungsinstrument. Beitrag zur materialistischen Rechtsstheorie, 1976.

Fälle zum Strafrecht. Besonderer Teil, 1976.

Wagner - Fangmann - Geulen, Das Urteil des Bremischen

Staatsgerichtshofes zur Juristenausbildung. JZ 1975, S. 430 ff.

Neue Tendenzen im Bereich der Amtsleikite. Bemerkungen zur Aufhebung des § 340 StGB und zur Änderung des § 340 StGB. ZRP 8, Jg., 1975, S. 273 ff.

Uneidliche Falschaussagen vor parlamentarischen Untersuchungsausschüssen. GA 1976, S. 257 ff.

※ **ヨハム・ワグナー** (Jochim Wagner)

一九四三年一月二四日の生誕を記念する。一九七一年に学位を得し、一九七四年には、ハンノリン自由大学助教教授となった。新しい制度によりつづるから、つづめる教授資格論文によりその地位をつつたものはなると認められる。恐らくは、ノットマガーの指導を受けたものだから。

著書

Verfassungseindliche Propaganda (§ 86 StGB). Ein Beitrag zu den Grenzen politischer Meinungsfreiheit in der Bundesrepublik Deutschland, 1971.

Selbstmord und Selbstmordverhinderung, 1975.

論文

Rechtliches Gehör und der Rechtsschutz des Strafgefangenen. GA 1975, S. 321 ff.

Der Rechtsschutz des Strafgefangenen. MschrKrim 59, Jg., 1976, S. 241 ff.

Die Neuregelung der Zwangsernährung. Zur politischen

Genese einer rechtlichen Fehlkonstruktion. ZRP 9, Jg., 1976, S. 1 ff.

**ヘーバー** (Heribert Waider)

〔刑一七・三・四〕一四三『**論文**』一〇一『**論文**』一〇六〕  
論文

Zur Theorie und Praxis der Reformation als innerkirchliches Widerstandsrecht. Festschr. f. Lange, 1976, S. 1001 ff.

**ルダ** (Heiz-Günter Warda)

〔刑一七・三・四〕一四二『**論文**』一〇二『**論文**』一〇六〕  
論文

Vorsatz und Schuld bei ungewisser Tätervorstellung über das Vorliegen strafbarkeitsausschließender, insbesondere rechtfertigender Tatumstände. Festschr. f. Lange, 1976, S. 119 ff.

※ **ウルリッヒ・ウェーバー** (Ulrich Weber)

一九三四年九月一八日に、シュトットガルトの近郊のハート・カンシュタットに生まれた。チュービンゲンとミュンヘンの両大学に学び、ハンマンの助手として、その刑法教科書と演習教科書の作成に協力した。学位は、チュービンゲン大学のフリッツ・パウアー

と提出した論文Die Anwendung der Vorschriften über Rechte an Grundstücken auf die Vormerkung von 1966年12月25日取得し、1966年3月以後、雑誌トリスマン・ツォーマンの編集者の一人となった。1974年の「Der strafrechtliche Schutz des Urheberrechts — Unter Berücksichtigung der bestehenden zivilrechtlichen Schutzmöglichkeiten, 1976年の論文「教授資格を取得し、1975年に私講師となり、1976年に短期間、ボンフヘルト大学教授を勤めて後、同年夏季期に「ヘルミン自由大学教授として招聘された。

著書

Baumann - Arzt-Weber, Strafrechtsfälle und Lösungen, 4. Aufl., 1976.

論文

Die Anwendung der Vorschriften über Rechte an Grundstücken auf die Vormerkung. Blätter für Grundstücks-, Bau- und Wohnungsrecht 1964, S. 1 ff., 17 ff., 42 ff., 54 ff.

Der 45. Deutsche Juristentag (Eröffnungssitzung, Strafrechtliche Abteilung, Sozialrechtliche Arbeitsgemeinschaft, Schlussvortrag). JZ 1964, S. 688 f., 726 f., 729 f.

Tagung der Strafrechtslehrer in Freiburg i. Br. (1965). JZ 1965, S. 503 ff.

Eröffnung der Rechts- und Staatswissenschaftlichen Fakultät der Universität Gießen. JZ 1966, S. 199 f.

Ideologie und Recht, Tagung der Deutschen Sektion der Internationalen Vereinigung für Rechts- und Sozialphilosophie (Köln 1966). JZ 1966, S. 412 f.

Der 46. Deutsche Juristentag (Eröffnungssitzung, Probleme der Verfolgung und Ahndung nationalsozialistischer Gewaltverbrechen, Strafrechtliche Abteilung, Schlussvortrag). JZ 1966, S. 714 ff., 759.

34. Deutscher Anwaltsrat in Bremen. JZ 1969, S. 376 f. Glosse „Landsmannschaftliches“. JZ 1967, S. 547 f.

Der 47. Deutsche Juristentag (Eröffnungssitzung, Strafrechtliche Abteilung). JZ 1968, S. 714 f., 755 f.

Emil Böhmert zum 80. Geburtstag. JZ 1969, S. 400 f. Tagung für Rechtsvergleichung (Eröffnungssitzung und Arbeitsitzung der Fachgruppe für Strafrechtsvergleichung). JZ 1969, S. 672 ff.

Der 48. Deutsche Juristentag (Eröffnungssitzung, Strafrechtliche Abteilung, Schlussvortrag). JZ 1970, S. 696 f., 700 f., 741 f.

Strafrechtslehertagung 1970 in Regensburg. JZ 1970, S. 789 ff.

Fristenverlängerung oder nicht? — Zur Berechnung der Strafantragsfrist, wenn das Fristende auf einen Sonntag, allgemeinen Feiertag oder Sonnabend fällt. JZ 1971, S. 480 ff.

Zusammenfassendes Diskussionsprotokoll, in : J. Baumann-G. Dähn (Hrsg.), Studien zum Wirtschaftsstrafrecht, 1971, S. 143 ff.

Claus Seibert zum 70. Geburtstag, JZ 1972, S. 326.

Der 49. Deutsche Juristentag (Eröffnungssitzung, Strafrechtliche Abteilung, Schlussvortrag), JZ 1972, S. 667 f., 760 f.

Hermann Weinkauff zum 80. Geburtstag, JZ 1974, S. 193.

Der 50. Deutsche Juristentag (Eröffnungssitzung, Abteilung Strafprozeß, Schlußveranstaltung), JZ 1974, S. 719 f., 723 f., 781 f.

Strafrechtslehrtagung 1975 in Göttingen, JZ 1975, S. 498 ff.

Der Mißbrauch prozessualer Rechte im Strafverfahren, GA 1975, S. 289 ff.

ウエルツ (Jürgen Welp)

〔判四一〇六〕

著書

Zwangsbefugnisse für die Staatsanwaltschaft, 1976.

ウエルツ (Hans Welzel)

〔刑一七・三・四一四〇〕 追二二一〇三三 判四一〇六〕

一九七七年五月初旬、死去した。

著書

Abhandlungen zum Strafrecht und zur Rechtsphilosophie, 1975.

論文

Recht und Sittlichkeit, Festschr. f. Fr. Schafstein, 1975, S. 45 ff.

Über Anlage und Zwillingforschung, Festschr. f. Lange, 1976, S. 659 ff.

ウエッセルス (Johannes Wessels)

〔判一七・三・四一三三〕 判二二一〇三三 判四一〇六〕

著書

Strafrecht, Allg. Teil, 5. Aufl., 1975, 6. Aufl., 1976.

Strafrecht, Bes. Teil I, 1976.

ウールトハイム (Thomas Württemberg)

〔判一七・三・四一三三〕 判二二一〇三三 判四一〇六〕

論文

In memoriam Hermann Mannheim (1889—1974), Mschr Krim. 57, Jg., 1974, S. 321 ff.

Erziehung und Recht im Strafvollzug, Deimling-Häußling, Erziehung und Recht im Vollzug der Freiheitsstrafe, 1974, S. 73 ff.



ン・ヒン・ン (Heinz Zipf)

〔刑一七・三・四、一三三、追々一〇五、追Ⅲ一〇五〕

一九七〇年、マンハイム大学教授となったが、一九七四年に、オーストリアのザルツブルク大学教授に就任した。

著書

Die mangelnde Strafwürdigkeit der Tat, 1975.

Maurach-Zipf, Deutsches Strafrecht. Allgemeiner Teil.

Teilband 1. 5. Aufl., 1976.

論文

Der Anspruch des Angeklagten auf Ausschluß der Öffentlichkeit zum Schutze des Privatbereichs — BGHSt 23, 82. Jus 1973, S. 350 ff.

Zur Einwilligung im neuen Strafrecht, insbesondere beim Zusammentreffen mehrerer Rechtsgüter in einem Strafverfahren. ÖRIZ 1976, S. 192 ff.

Reform des Strafverfahrensrechts. Sieverts — Schneider, Hw. d. Krim. 2. Aufl., Erg. Bd. Lieferung 1, 1977, S. 121 ff.